

## 「大学連携バイオバックアッププロジェクト (IBBP)」に関する協定を締結 産学連携本部「函館サテライト」を設置

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成23年度）」の概要について
- ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について





北大キャンドルナイト2012



化学物質取扱講習会

## 1 大学に求められる広報活動

— 広報と同窓会 —

### 全学ニュース

- 2 「大学連携バイオバックアッププロジェクト (IBBP)」に関する協定を締結
- 3 産学連携本部「函館サテライト」を設置
- 3 水産科学研究所 桜井泰憲教授が環境大臣表彰を受賞
- 4 「総長主催記者懇談会」を開催
- 4 北大キャンドルナイト2012を開催
- 5 第11回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催
- 5 日本学術振興会学術システム研究センター研究員に係る説明会を開催
- 6 平成24年度総長室事業推進経費「公募型プロジェクト研究等支援経費」採択結果
- 8 北大フロンティア基金
- 10 第20回北海道大学教育ワークショップ (FD) を開催
- 11 化学物質取扱講習会を開催

### 部局ニュース

- 12 地球環境科学研究所・環境科学院が台湾国立東華大学環境学院と部局間学術交流協定を締結
- 13 公共政策学連携研究部及び教育部が茅室町議会と包括的連携協定を締結
- 13 農学研究所が北海道新聞社編集局との連携協定を締結
- 14 3研究所合同で一般公開を開催
- 16 環境科学院で北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催
- 16 第1回スラブ研究センター公開講演会「中央アジアから見る世界の『今』」を開催
- 17 水産学部附属練習船うしお丸が気象庁長官表彰を受賞
- 18 法科大学院で弁護士による説明会を開催
- 19 会計専門職大学院で公認会計士・監査審査会委員の特別セミナーを開催
- 19 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
- 20 経済学部で成績優秀者表彰式を挙行
- 20 経済学部がプレゼン・ディベート大会に向けてセミナーを開催
- 21 附属図書館で2012年 日・EUフレンドシップウィーク「フィンランド展」を開催
- 22 工学部で「第1回心のケアに関する講習会」を開催
- 22 薬学部でメンタルヘルスケア講習会を実施
- 23 平成24年度国立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議を開催

- 24 日本ハムファイターズが院内学級を訪問
- 25 総合博物館で企画展示「藻類が人類の未来を救う」を開催
- 26 大学文書館で第2代総長南鷹次郎関係資料を受贈

### お知らせ

- 27 「北海道大学の役職員の給与等の水準 (平成23年度)」の概要について
- 28 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

### レクリエーション

- 28 教職員テニス大会の開催

### 研修

- 31 平成24年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修
- 31 平成24年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

### 博士学位記授与 32

### 同窓会との交流

- 34 平成24年度北海道大学連合同窓会 評議員会・幹事会合同会議を開催
- 34 東京同窓会「新社会人歓迎会」
- 35 関西同窓会「北大会館祭」(9周年)
- 35 第64回工学部同窓会総会
- 36 「都ぞ弥生」百年記念事業と記念祭

### 諸会議の開催状況 38

### 学内規程 39

### 表敬訪問 40

### 人事 41

- 43 新任教授紹介

### 訃報

- 44 名誉教授 田中 英二 氏
- 44 名誉教授 高橋 香織 氏



3研究所合同一般公開 (低温科学研究所)



3研究所合同一般公開 (電子科学研究所)



3研究所合同一般公開 (遺伝子病制御研究所)



日本ハムファイターズが院内学級訪問

表紙：メインストリート・低温科学研究所 (1955年)

裏表紙：北の息吹<sup>®</sup> エゾスカシユリ (*Lilium pensylvanicum*)

# 大学に求められる広報活動

## — 広報と同窓会 —

広報・同窓会担当理事 **三上** みかみ **隆** たかし



大学での広報の目的は、社会における大学の役割と姿勢、社会への責任などを明確にし、北海道大学を広く認知してもらうことにあります。また、建学の精神やビジョンを広く社会にピーアールし、ブランドイメージを構築していくことも広報の重要な役割です。

広報の内容は教育、研究、社会貢献など様々な分野に渡り、その対象も国内にとどまりません。特に国立大学法人化後、大学に対する情報公開の要求は増し、積極的な広報活動が望まれています。以下では、本学の広報活動を行う仕組みと現在進めているプロジェクトについて紹介します。

### 北海道大学の広報活動

本学では、総長を室長とする広報室において広報に関する企画・立案をし、その業務実施は広報課が担当しています。広報課は全学的な広報全般を担当していますが、内容により、各部局等と連携しながら広報活動を進めています。

情報の発信手段として、「リテラポプリ」、「北大時報」、「北海道大学読本」などの広報誌を発行しています。これらの広報誌は、本学ホームページでも閲覧できます。ホームページでは発行日の制約を受けずに様々な最新のニュースを発信でき、本学に関する情報を一元化しているため、有効な情報媒体として機能しています。これらの情報発信手段に加え、報道機関を通じた発信にも力を入れています。例えば、記者とのより良いコミュニケーションを図るため、総長主催の「記者懇談会」を開催しています。また、適宜プレスリリースを行い、広く一般の方に本学の取組みや優れた研究成果を紹介しています。教職員の皆様にも積極的にプレスリリースを活用してほしいと思います。

新たな動きとしては、これまで学内に眠っていた貴重な画像・映像を中心とした情報のデータベース化を進めています。広報素材を共有化・共通化するべく、学内での活用に向けて作業を進めているところです。

### 連合同窓会とホームカミングデー



北大を良く知り、そして愛着を持っている卒業生は、本学の最高の広報マンです。大学と同窓生が一体になる北海道大学連合同窓会（全学同窓会）は、社会との連携の要に、また相互支援体制の要に位置づけられており、本学と同窓生が情報を共有できる組織です。連合同窓会は、本学が法人化された平成16年に学部と地区の同窓会を会員として設立され、平成24年6月現在、19学部等及び28地区の同窓会

（海外では中国、台湾、ブラジル）、合計47団体で構成されています。連合同窓会では、同窓生の支援、本学の支援のため大学と連携を図りながら、クレジットカード「北海道大学カード」の発行など各種事業を展開しています。

本年10月6日（土）には、札幌キャンパスにおいて第1回のホームカミングデーを開催します。この催しは、大学と同窓生とのつながりをさらに深めるため、本学と連合同窓会が連携して始める新たな事業です。本学を卒業・修了された同窓生の方々が、学部・学科、年代を超えて母校に集い同窓生相互の親睦を深めるとともに、母校の教育研究の諸活動の“今”を知ってもらうことを目的としています。当日は、歓迎式典・記念講演会（鈴木 章名誉教授）、懇談会、20の部局・同窓会の企画行事が予定されています。詳細は本学ホームページ内特設サイト（<http://www.hokudai.ac.jp/pr/alumni/home/index.html>）でご覧いただけます。同窓生・教職員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 地域社会に開かれた大学

緑の多い本学キャンパスを地域住民に開放することは、環境の良さとアカデミックな雰囲気を身近に感じてもらうためにも有益です。正門を入ってすぐ左側に北大インフォメーションセンター“エルムの森”があります。ここでは、各学部等のパンフレットをはじめとする広報誌を手にとることができ、北大グッズを販売するショップとカフェが併設され、訪れた市民や観光客に北大を知ってもらう施設として機能しています。

また、今年で7回目の開催となる“緑のビアガーデン”は、キャンパスの夏の風物詩として地域に定着しています。今年も、7月31日（火）～8月3日（金）の4日間、百年記念会館を会場として開催します。冷たいビールと北大牧場産の食材を使用したフードをお楽しみください。

### おわりに

現在そしてこれからも激しく変化する社会において、大学の広報あり方は、絶えず模索を繰り返していかなければなりません。現在、学内には非常に多くの広報誌やパンフレット類があり、その情報量は膨大なものとなっています。見る側に立って作成され、かつ簡潔に整理された情報を発信しているか、今後一層の工夫が求められています。

常により良い広報とは何であるかを考え、同窓生との連携を図り、北大ブランドを高めていきたいと考えます。

## ■全学ニュース

# 「大学連携バイオバックアッププロジェクト (IBBP)」に関する協定を締結



6月18日（月）に行われた共同記者発表の様子（右から3人目：佐伯 浩総長）

大学共同利用機関法人自然科学研究機構並びに国立大学法人北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学及び九州大学は、災害に強い生命科学研究を実現するため、全国の大学・研究機関での研究に不可欠な生物遺伝資源をバックアップする「大学連携バイオバックアッププロジェクト (IBBP<sup>\*</sup>)」を発足させるべく、機構・各大学間の協定を6月1日付けで締結し、その体制整備に着手しました。

先の東日本大震災では、飼育・栽培設備の損壊、長期の停電に伴う冷凍研究試料の融解、水やガスの供給停止による飼育生物の死滅や栽培植物の枯死などが多数報告されました。研究過程で作製された多様な生物遺伝資源（動物や植物などの突然変異体や遺伝子組換え体、培養細胞、微生物、遺伝子サンプルなど）の毀損・消失は、我が国の生命科学研究をはじめとする関連分

野の研究の停滞、国際競争力の低下に直接つながるものであり、かかる事態を回避するため、全国的な生物遺伝資源のバックアップ体制を構築することが急務となっています。

自然科学研究機構は、同機構基礎生物学研究所(愛知県岡崎市)に集中バックアップ保存施設としてIBBPセンターを設置します。各大学には大学サテライト拠点を設置し、IBBPセンターと双方向的で緊密な連携により各担当エリア内の重要な生物遺伝資源を計画的にバックアップできる体制を本年度中に整備します。

本学（北海道地区）では、理学研究院がサテライト担当となり、理学研究院附属の研究・教育支援施設である「ゲノムダイナミクス研究センター」が、本プロジェクトの北海道内における広報や、利用者とIBBPセンターとの仲介を行います。

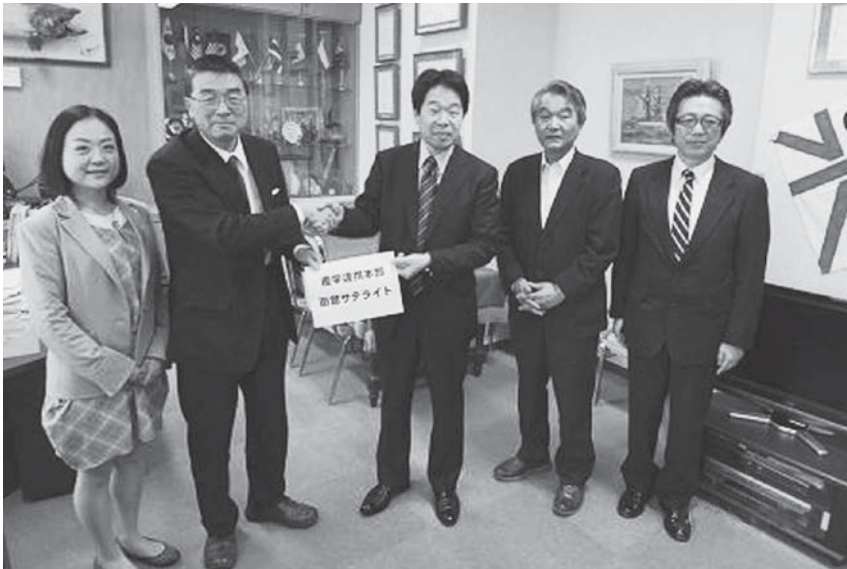
基礎研究や医学・薬学研究における

生物資源・遺伝子資源の保存はもちろんですが、本学及び北海道地区では、特に畜産・獣医学をはじめとして、農林水産業に関連する研究や環境科学分野においても重要な生物資源が多く、昨年の東日本大震災で貴重な研究資源が失われたことを考えると、これらの保存に関するバックアップ体制の構築は強く望まれていたものであり、バックアップ体制の整備により、これまで各大学や研究機関でのみ保存されてきた生物遺伝資源がIBBPセンターの最新設備で確実にバックアップされ、研究基盤の強化が図られることとなります。

<sup>\*</sup>IBBP : Interuniversity Bio-Backup Project for Basic Biology

(理学院・理学研究院・理学部)

## 産学連携本部「函館サテライト」を設置



握手する嵯峨水産科学研究院長（左）と木曾産学連携本部TLO部門長（右）

6月1日（金）に、函館キャンパスの水産科学研究院内に産学連携本部「函館サテライト」を設置しました。当日は、嵯峨直恆水産科学研究院長、木曾良信産学連携本部TLO部門長の同席の下、開所式を行いました。

今後、毎月定期的に産学連携本部のマネージャーが函館キャンパスを訪問し、共同研究や知財に関する相談に対応します。また、学内教職員との相談のみならず、函館地区の産学官連携にかかる各種事業、大学の研究シーズの事業化、地元企業との共同研究、プロジェクトの形成に向けたコーディネートなども行うことを視野に入れています。

今後も、本学の産学連携活動を一層充実させるべく、活動を展開してまいります。

（産学連携本部）

## 水産科学研究院 桜井泰憲教授が環境大臣表彰を受賞

この度、平成24年度環境保全功労者（環境大臣表彰）として、水産科学研究院 桜井泰憲教授が選ばれました。環境保全功労者表彰は、環境保全に関し顕著な功績があった者（団体）に対して、贈られるものです。

同氏の主な功績は次のとおりです。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



賞状を手にする桜井教授

### 功 績

平成16年に知床世界自然遺産候補地科学委員会委員に就任し（同委員会は平成17年に知床世界自然遺産地域科学委員会に名称変更）、同地域ワーキンググループ座長を務め、遺産登録案件を審査するIUCN（国際自然保護連合）からの海の保全に関する指摘への対応に当たり、科学的な見地からの助言を行いました。桜井教授による助言は、知床の世界遺産登録の実現への大きな貢献となりました。

その後、漁業者をはじめとする関係者間の合意を得た知床世界自然遺産地域多利用型統合的の海域管理計画の策定に

中心的に関与しました。知床の海域管理のあり方は漁業者による自主的管理のモデルとして広く世界に紹介されています。

平成17年には、中央環境審議会臨時委員に就任しました。自然環境部会・野生生物部会を担当し、自然公園法の改正や生物多様性国家戦略の改定作業に貢献しています。また、海洋生物多様性保全戦略の策定や重要海域の抽出に、検討委員として関与し、漁業と海洋生態学をつなぐ視点から貴重な示唆を与え続けています。

## 「総長主催記者懇談会」を開催

6月22日（金）、事務局特別会議室において、昨年に引き続き、報道機関とのより良いコミュニケーションを図るために懇談会を開催し、各社から記者6名の出席を得ました。

本学からは、佐伯 浩総長、本堂武夫理事・副学長、三上 隆理事・副学長、山口佳三理事・副学長、高杉重夫理事・事務局長が出席し、本学が力を入れている取り組みについてアピールし、記者の方々と意見交換を行いました。

冒頭、佐伯総長から建学の歴史、教育・研究・国際化に関する取り組み、経営努力などについて紹介の後、記者から秋入学、大学改革実行プラン、総

合入試導入後の変化などについて質問があり、和やかな雰囲気での懇談が進みました。

会の最後には、佐伯総長から「ステークホルダー一人ひとりに本学の取り組みなどを説明するのは難しいので、記者の方を通じて伝えられるのはありがたい。お互いのコミュニケーションを図るために、こういった場を今後も持たせていただきたい」との発言がありました。

なお、当日席上には、今後の取材活動に利用していただくため、各総長室等から募った最新の取り組みに関する情報をテーマ別にまとめた資料や広報誌を配付し、情報発信に努めました。

また、この懇談会は、中期計画にも掲げている多様なステークホルダーの視点に立った広報活動を展開する取り組みの一環として行ったものです。

（総務企画部広報課）



記者からの質問に答える佐伯総長

## 北大キャンドルナイト2012を開催

6月21日（木）の夏至の日に、インフォメーションセンター「エルムの森」前で“北大キャンドルナイト2012”を開催しました。

本学は今年2度目の「さっぽろキャンドルナイト」への参加となりました。街路灯を2灯消灯し、正門から車両規制ゲートまでの道路およそ100mの両側にキャンドルおよそ230個を並べて灯しました。今回は風よけに新聞紙を活用したタイプと、紙袋を重ねてランタンにしたものを使用し、工学祭にて学生団体SCSDが開催した「廃油からキャンドルを作ろう」で作成されたキャンドルも活用しました。このキャンドルは、アロマオイルを使用しているため、灯りをつけるとほんのりと香りがしていました。

家族連れやカメラを持ってキャンドルを撮影される方など、昨年度より多くの方がお越しくださいました。

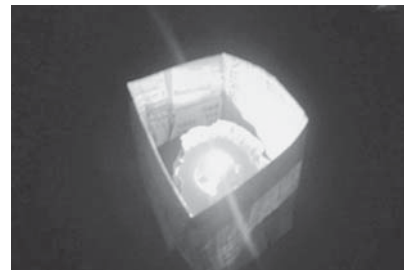
準備や後片付け・風よけの製作は、学生団体SCSDの方々や施設部環境配慮促進課の皆さん、工学系事務部の鶴田由佳さんに協力してもらい、キャンドルの点灯は、工學院の学生さんと群

馬から来た学生さんに手伝っていただきました。改めてお礼申し上げます。

（サステイナブルキャンパス推進本部）



キャンドルに光を灯す群馬からの学生さん



クレヨンで紫色に着色した、廃油で作成したキャンドル



新聞紙で作成した風よけ



キャンドルを撮影する来場者

## 第11回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催

6月18日(月)、東京ステーションコンファレンス(東京都千代田区丸の内)において、「最新の地震学」をテーマに第11回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催しました。

本セミナーは、本学と九州大学が現在進めている研究について、広く産業界、社会人、同窓生の皆様に知っていただき、各分野の方々との連携・交流を深めるため平成20年度より合同で開催しています。

第11回目となる今回のセミナーは、近年更に注目を集めている「地震」がテーマとなっていることもあり、約230名の方々にご参加いただきました。



講演する谷岡先生(理学研究院)

最初に登壇した本学の谷岡勇市郎教授(理学研究院)は、「2011年東北地方太平洋沖地震による大津波の励起解明と将来の津波予測」と題し、様々な地震観測の方法及びそれらによって解明された地震の励起過程について、2011年に発生した地震から実際に観測されたデータを元に説明し、さらに新しい観測方法を利用した今後の地震及び津波予測の展望について講演を行いました。

次に、九州大学の金嶋 聰教授(理学研究院)は、「地震学と地球中心核」と題し、地球深部の構造が解明される過程で地震波研究が果たした役割につ



パネルディスカッションの様子

いて、また地球中心核に関する最新の地震学的な発見について講演されました。

休憩をはさんで行われたパネルディスカッションでは、本学の村上 亮教授(理学研究院)がコーディネーター、講演を行った谷岡教授及び金嶋教授がコメンテーターとなり、両教授の講演内容を中心に参加者との質疑応答を盛り込む形で進められました。参加者からは様々な質問が寄せられ、盛会のうちに終了しました。

なお今後も、11月9日(金)に東京ステーションコンファレンスで第12回北大・九大合同フロンティア・セミナーの開催を、平成25年1月12日(土)に都市センターホテル(東京都千代田区平河町)で第8回九州大学・北海道大学合同活動報告会の開催を予定しています。これらのイベントにも多くの皆様のご参加をいただきますよう、よろしくお祈いします。

(研究推進部研究振興企画課)

## 日本学術振興会学術システム研究センター研究員に係る説明会を開催

7月4日(水)、事務局大会議室において、日本学術振興会学術システム研究センター研究員に係る説明会を開催しました。

説明会には、多数の部局等の長及び教育研究評議会評議員が参加しました。

講演に先立ち、上田一郎研究戦略室長から挨拶があった後、今年3月まで日本学術振興会学術システム研究センター研究員に就任していた低温科学研

究所の原登志彦教授から、センター研究員の果たす役割や業務内容について、ご自身の経験も交えた講演がありました。続いて同センターの梶山正司審議役からセンター研究員の選考の基準や決定までの流れについて説明いただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。

(研究推進部研究振興企画課)



講演する原先生(低温科学研究所)



説明する梶山審議役(日本学術振興会)

# 平成24年度総長室事業推進経費 「公募型プロジェクト研究等支援経費」採択結果

本学の総長室事業推進経費による「公募型プロジェクト研究等支援経費」について、平成24年度の募集における採択結果は、次のとおりです。

「国際共同研究支援」は3件の採択（申請6件）、「国際研究集会等開催支援」は7件の採択（申請14件）、「国際研究集会等出席支援」は14件の採択（申請21件）、「若手研究者自立支援」は21件の採択（申請62件）となりました。

(研究推進部外部資金戦略課)

## 1 国際共同研究支援

採択数 3件 採択金額 10,000千円

単位(千円)

採択者	所属・職名	研究題目	採択額
立澤 史郎	文学研究科・助教	温暖化するアジア北極圏における「野生動物－北方先住民関係」再構築のための学際的実証研究	2,900
奥村 正裕	獣医学研究科・教授	北海道大学およびアフリカ諸国との国際共同研究ネットワーク基盤「Hokkaido University Research Network with African Countries : HURNAC」の構築	3,200
今内 覚	獣医学研究科・准教授	家畜海外悪性伝染病に対する新規制御技術創出のための基盤研究	3,900

## 2 国際研究集会等開催支援

採択数 7件 採択金額 10,946千円

単位(千円)

採択者	所属・職名	研究集会等名／開催期間	採択額
眞嶋 俊造	文学研究科・准教授	第7回応用倫理研究教育センター (H24.10.26～10.28)	1,542
石森浩一郎	理学研究院・教授	Challenges in Advanced Chemistry of Asia (H24.11.8～11.11)	1,800
小野寺 彰	理学研究院・教授	International Workshop on New Frontiers in Ferroelectrics (H25.2.1～3.31の間で4日間)	1,600
松井 博和	農学研究院・教授	Conference on Agricultural Biodiversity and Sustainability 2012 (CABS2012) / (H24.8.27～8.31)	2,000
中村 孝	工学研究院・教授	The 3rd East Asia Mechanical and Aerospace Engineering Workshop (H25.1.23～1.25)	1,800
四ツ倉典滋	北方生物圏フィールド科学センター・准教授	北太平洋沿岸域における寒海性コンブ多様性研究の最前線 Front of diversity research on kelp in the North Pacific (H25.5.29～5.31)	1,506
齋藤 健	環境健康科学研究教育センター・教授	サステナビリティウィーク2012 (SW2012) 第3回国際シンポジウム：「東アジアの子どもの健康とサステナビリティ～子どもたちをとりまく生活環境と健康問題(仮題)」, 及び環境健康科学研究教育センターワークショップ (H24.10.15～10.17)	698

## 3 国際研究集会等出席支援

採択数 14件 ※旅費を支給

採択者	所属・職名	研究集会等名
寺沢 重法	文学研究科・助教	2012 Society for the Scientific Study of Religion Annual Meeting
坪田 敏男	獣医学研究科・教授	第5回アジア野生動物・保全医学会学術集会
小西 克明	地球環境科学研究院・教授	16th International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (ISSPIC-XVI)
山本 正伸	地球環境科学研究院・准教授	米国地球物理学連合2012年秋季大会
松島 俊也	理学研究院・教授	第10回ニューロエソロジー国際会議 (Tenth International Congress of Neuroethology)



採択者	所属・職名	研究集会等名
石森浩一郎	理学研究院・教授	International Conference on Porphyrin and Phthalocyanine
橘 省吾	理学研究院・講師	1. The 22nd V.M.Goldschmidt Conference 2. The 5th meeting on Cosmic Dust
武貞 正樹	理学研究院・講師	Joint International Symposium ISFD-11th -RCBJSF 11th International Symposium on Ferroic Domains and Micro- to Nanoscopic Structures (ISFD) and the 11th Russia/CIS/Baltic/Japan Symposium on Ferroelectricity (RCBJSF)
愛甲 哲也	農学研究院・准教授	The 6th International Conference on Monitoring and Management of Visitors in Recreational and Protected Areas (第6回レクリエーション・保護地域利用者モニタリング・管理国際会議)
佐藤 太裕	工学研究院・准教授	The 2012 World Congress on Advances in Civil, Environmental, and Materials Research
山本 靖典	工学研究院 ・特任准教授	2nd International Conference for Molecular and Functional Catalysis 2012 (ICMFC-2) (第2回国際分子機能触媒会議)
大島 伸行	工学研究院・教授	10th world congress on computational mechanics (第10回計算工学国際会議)
太田 信廣	電子科学研究所・教授	XXIVth IUPAC Symposium on Photochemistry
山崎 幸治	アイヌ・先住民研究センター・准教授	AINU TREASURES: A Living Tradition in Northern Japan

#### 4 若手研究者自立支援

採択数 21件 採択金額 15,756千円

単位 (千円)

採択者	所属・職名	研究題目	採択額
村松 正隆	文学研究科・准教授	19世紀フランス社会科学の流入と日本近代化への影響	800
高瀬 克範	文学研究科・准教授	ロシア・モスクワ州における中石器の利用法解明	515
王 万旭	法学研究科・助教	有限責任の意義と過小資本による株主の責任に関する独日中の比較研究 - 資本制度を中心に	688
的場光太郎	医学研究科・助教	法医学解剖で採取される液体の電解質濃度測定による溺死診断の確率	800
坂下 智博	医学研究科・助教	頭頸部扁平上皮癌・手術切除断端における免疫組織学的予後予測因子の検討	760
山盛 徹	獣医学研究科・准教授	APエンドヌクレアーゼを介したミトコンドリアDNA損傷修復機構のがん病態における役割の解明	720
中村 健介	獣医学研究科・助教	心房機能解析は心不全発症を予測する新規検査法となり得るか	760
藤本 貴史	水産科学研究院 ・准教授	サケ科雑種の生存率と、異種ゲノムの組合せが遺伝子発現に与える影響	760
和多 和宏	理学研究院・准教授	自発的行動による脳内エピジェネティクス制御と音声発声学習	760
橘 省吾	理学研究院・講師	宇宙鉱物学の新展開: マグネシウムケイ酸塩の異方的成長・均質核形成	800
堀内 涉	理学研究院・助教	第一原理核子多体理論の構築とその不安定核、宇宙核物理への応用	800
福原 哲哉	理学研究院・助教	衛星搭載用熱赤外カメラの地上構成実験	760
小林 謙	農学研究院・助教	<i>in vitro</i> 乳腺モデルのライブイメージングによるカゼインミセル分泌機構の動的解明	760
田中 良和	先端生命科学研究院 ・准教授	黄色ブドウ球菌の2成分性膜孔形成毒素の分子機構の解明	760
宮盛 邦友	教育学研究院・助教	ランジュヴァン=ワロン計画の議事録の収集・データ化に関する研究	760
大竹 翼	工学研究院・准教授	局所安定同位体比分析によって明らかにする鉄に富んだ堆積岩の成因と初期地球の表層環境	760
永山 昌史	工学研究院・助教	1細胞レベルの脂肪滴ダイナミクスに着目した脂肪分解制御機構の解明	760
笹倉 弘理	電子科学研究所・助教	半導体ナノ構造体における共鳴散乱過程を用いた究極的な擾乱要因の除去	713
本林 健太	触媒化学研究センター・助教	電極界面におけるイオン液体の電位応答ダイナミクスの <i>in situ</i> 観測	760
大西なおみ	人獣共通感染症リサーチセンター・助教	タンパク質四次構造情報を基盤とした新規抗炭疽ワクチンの開発	800
磯部 繁人	創成研究機構 ・特任助教	触媒最表面原子配列と触媒活性度の相関 ~水素貯蔵物質を例に~	760

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしていますが、平成27年度末までに募金目標額50億円の半分程度の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	13,349件 2,498,735,972円
基金累計額（6月30日現在）	教職員の寄附率 28.5%（1,105件／3,878人）

## 6月のご寄附状況

法人等12社、個人873名の方々から9,745,976円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

医療法人王子総合病院、医療法人社団川口小児科医院、株式会社北見港湾総合研究所、有限会社札幌庭園工業、市立釧路総合病院、新琴似内科クリニック、セントラルコンサルタント株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、北大機械工学科37期卒業50周年記念

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相場 隆	青木 由徳	荒川 政幸	飯田智恵子	池浦 信	池田 惇	石川 博将
伊藤 猷一	伊藤 泰光	犬山 康成	岩田 康男	岩橋 保	上田 敦	上田 幹人	内田 猛
大家 浩一	大崎 智弘	大澤 一彦	大沢 弘之	大嶋 挹廉	大橋 克彦	大保みち子	奥田 茂久
小内 透	小野 武彦	小野 秀輝	小原 孝夫	小原 大和	金川 眞行	菊地 祥晃	北野 浩之
北村 裕	木村 純	木谷 勝	倉重 尚成	栗林 裕	小柴 誠	小林 哲治	近藤 哲也
齋藤 道雄	堺 建	桜井 宏	佐々木一郎	佐藤 貞雄	佐藤 雅彦	佐藤 優子	清水 利光
清水 洋	鈴木 征一	鈴木 英友	瀬名波栄潤	芹澤 優子	高木 聡	高橋 光彦	高村 昌宏
竹村 公一	竹本 寛秋	田畑 穰	土家 琢磨	寺澤 睦	富岡 幸子	豊田 威信	仲西 正憲
波岸 裕光	野坂 政司	林 正敏	原 正則	樋口 毅	藤井 博昭	藤澤 秀章	藤本 力
干場 信司	松野 勲	松本 精一	松本 昌史	間中 俊夫	水谷 洋一	三谷 千花	嶺 重郎
峰島 恒	宮地 英光	室田 信男	茂木 俊史	八十川大輔	山崎 賢司	山下 勲	山田佳世子
山田 喜治	吉田 広志	和田 博義	渡邊 徹也	渡邊 伸弥			

**銘板の掲示**（20万円以上のご寄附）**（法人等）**

医療法人王子総合病院，北大機械工学科37期卒業50周年記念

**（個人）**

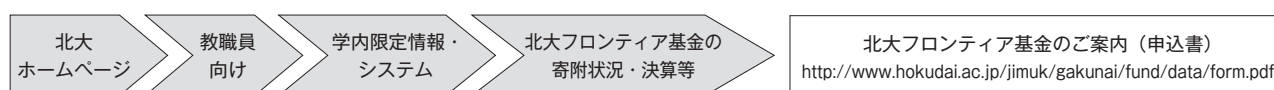
犬山 康成，小野 武彦，高木 聡，仲西 正憲

**感謝状の贈呈**

清水建設株式会社様（平成24年7月17日）

**ご寄附のお申し込み方法****① 給与からの引き落とし**

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

**② 郵便局または銀行への振り込み**

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

**③ 現金でのご寄附**

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## 第20回北海道大学教育ワークショップ（FD）を開催



教育ワークショップ参加者

全学の主に若手教員を対象とした教育ワークショップを6月8日（金）・9日（土）の両日、奈井江町の農業構造改善センターを会場に宿泊形式で開催しました。

このワークショップは、本学のFD（ファカルティディベロップメント）の一環として、平成10年度から毎年実施しているもので、今回は「総合教育の充実を目指して」をテーマに開催しました。本学の教員32名の参加があり、仮想的な授業科目を発案し、そのシラバスを作成することにより、教育の基礎を理解し、新しい教育手法を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、本堂武夫理事・副学長から挨拶があった後、「北大の全学教育と総合入試」、「授業における著作権」等のミニレクチャーを挟み、午後からは5グループに分かれ、シラバスを作成するメインプログラムに入りました。

このプログラムでは、課題の説明、グループ討論と成果の発表、全体討論をセットにして3回行い、シラバスを

具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目的・内容・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。

グループ作業は、討論進行係、記録係、発表係の役割分担を決めて進められ、設定された課題を次々と実施していきました。各グループでは、それぞれ工夫を凝らした授業科目に係るシラバスが設計され、発表の場では質問や議論が活発に行われました。

最後に、細川敏幸高等教育推進機構高等教育開発研究部門長から受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡されました。

参加者からは、「シラバス作成の重要性を再認識できた」、「大学教員として教育の重要性を学ぶことができた」、「他分野の教員と共通のテーマで議論ができ、有意義であった」等の感想が寄せられました。

なお、本ワークショップは年2回開催しており、本年11月上旬に2回目を開催する予定です。

（高等教育推進機構）



山口淳二高等教育推進機構総合教育部長によるミニレクチャー



グループ討論の様子

# 化学物質取扱講習会を開催

本学の実験室等において薬品などの化学物質を取り扱う場合、取扱者は消防法や労働安全衛生法といった各種法令を遵守し安全や健康を管理することはもとより、併せて環境への配慮などが求められているところです。

安全衛生本部では、6月13日（水）から7月5日（木）にかけて、以下の

内容により、学生・教職員等を対象に薬品などの化学物質を扱う際の注意点等を説明するため、部局等において「化学物質取扱講習会」を実施しました。

本講習会の会場では、特に学部学生が、これまで何気なく授業で使ってきた薬品や有機溶剤が、いろいろな法令により規制されていることを知る機会

となり、緊張した面持ちで聞き入っている様子も見受けられました。

なお、本講習会は、毎年開催する予定となっています。化学物質を扱う方は、積極的に受講するようお願いいたします。

（総務企画部総務課安全衛生室）

## 講習会の内容等

1. 消防法、毒物及び劇物取締法及び労働安全衛生法上の安全管理（担当：安全衛生本部 特任准教授 川上貴教）
2. 国際規制物資に関する注意点（担当：安全衛生本部 特任教授 関 興一）
3. 廃液の処理（担当：環境保全センター 特任助教 江見清次郎）

回	開催日	会 場	回	開催日	会 場
1	6/13（水）	保健科学研究院3の1教室	8	6/22（金）	創成研究機構創成棟大会議室
2	6/14（木）	低温科学研究所215講義室	9	6/25（月）	医学部臨床講義棟大講堂
3	6/15（金）	薬学部臨床講義室	10	6/26（火）	理学部大講義室
4	6/18（月）	地球環境科学研究院D棟201室	11	6/27（水）	工学部オープンホール
5	6/19（火）	獣医学部講堂	12	6/28（木）	工学部オープンホール
6	6/20（水） （2回開催）	農学部大講堂	13	6/29（金）	歯学部講堂
			14	7/3（火）	創成研究機構創成棟大会議室
7	6/21（木） （2回開催）	理学部大講義室	15	7/4（水）	函館キャンパス大会議室
			16	7/5（木）	函館キャンパス大会議室



会場の様子



講演する川上特任准教授

## ■ 部局ニュース

# 地球環境科学研究所・環境科学院が 台湾国立東華大学環境学院と部局間学術交流協定を締結



調印式後の記念撮影

6月25日（月）、地球環境科学研究所・環境科学院は台湾国立東華大学環境学院との間で部局間学術交流協定を締結しました。これは研究者・学生による研究及び学生交換プログラムについて、教育的・学術的な相互交流を推進するというものです。

台湾国立東華大学は台湾政府が1994年に台湾東部の学術と文化水準の向上を目的として設立した国立大学で、自由、民主、創造、卓越を理念としています。大学は8つの学院から構成され、環境学院はそのうちのひとつで2009年に設置された新しい学院です。

新たな大学の設立に際し、世界の一線で活躍するスタッフによって組織された経緯もあり、東華大学環境学院は内外のフィールド研究を牽引する研究者を擁しています。特に、本学も連携しているスミソニアン熱帯林研究センター（米国）の東南アジア熱帯多雨林大面積長期研究プロジェクトの統括責任者も東華大学に加わり、近年では本学と東華大学の生物多様性共同研究の舞台もマレーシアから台湾に広がっています。国際長期生態学研究ネットワーク（ILTER）や博士研究員の長

期受入れの連携実績をベースに、アクティブな研究教育交流プログラムを構築すべく、この度、部局間交流協定を締結するに至りました。

東華大学で行われた調印式では、同大学から呉茂昆学長をはじめ夏禹九学院長ら関係者の方々が、本院からは嶋津克明地球環境科学研究所長・環境科学院長、甲山隆司地球環境科学研究所長補佐・環境科学院副学院長、福井学教授（低温科学研究所）、島村道代特任助教（地球環境科学研究所）が出席しました。また、調印式の後はそれぞれの大学の紹介が行われました。

翌26日（火）には、東華大学環境学院から夏学院長をはじめ7名の研究者及び博士課程の学生2名が、本院からは嶋津研究院長・学院長、甲山研究院長補佐・副学院長、島村特任助教等が出席し、双方の研究者から各人の教育・研究活動の概要について紹介があり、その後質疑応答が行われ、予定の時刻を超過するほどの活発な意見交換が行われました。

（環境科学院・地球環境科学研究所）



協定書に署名する嶋津研究院長・学院長（左）、夏学院長（右）



教育・研究に関する意見交換の様子

## 公共政策学連携研究部及び教育部が芽室町議会と包括的連携協定を締結



連携協定締結後の記念撮影

広瀬芽室町議会議長（左）、宮脇公共政策学連携研究部長（右）

公共政策学連携研究部及び教育部と芽室町議会は、地方自治・地方議会等に関する共同調査研究や学習研修機会の提供など双方の人的・知的交流を目的として、6月6日（水）に包括的連携協定を締結しました。

かねてより地方議会改革に積極的に取り組まれていた芽室町議会では、専門的知見の導入を企図した議員会主催の研修会を継続的に行っており、その研修講師として本年1月に本研究部教員が招かれたことがきっかけで包括的

連携協定締結となりました。

当日は、芽室町議会議事堂で調印式が執り行われ、広瀬重雄芽室町議会議長、宮脇 淳公共政策学連携研究部長から挨拶がありました。引き続き、宮脇連携研究部長からの記念講演「地域と議会そして大学—包括連携がもたらす地域づくり—」が行われました。

全国的にも大学と地方議会が包括的連携協定を締結する例は少なく、山梨学院大学と昭和町議会、埼玉大学とさいたま市議会、福島大学と福島県会津美里町議会など数件程度であり、道内では初の試みです。

今後も、地方自治・地方議会等に関する調査協力や本研究部主催の地方議員向けサマースクールへの参加を通じて、多様な人的・知的交流を図ることが期待されます。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）

## 農学研究院が北海道新聞社編集局との連携協定を締結

農学研究院・農学院・農学部と北海道新聞社編集局は、緊密で組織的な連携関係を構築することにより、北海道農業と食品産業の振興、生物生産に関する教育研究の発展、食と農への道民の理解の進展などに資することを目的として、6月11日（月）、連携・協力に関する協定を締結しました。

当日は農学研究院で調印式が執り行われ、松井博和農学研究院長から、農学研究院が蓄積する農業関連の知見を道民に還元するために、地方紙の持つ情報発信力に期待していること、広瀬兼三北海道新聞社編集局長からは、農学部・農学院から多くの指導者的な人材が輩出されており、その人脈を活用して、北海道農産業や食品産業の活性化や地域社会の発展に寄与していくことについて、それぞれ挨拶がありました。

（農学院・農学研究院・農学部）



協定書を交わす松井農学研究院長（左）と広瀬北海道新聞社編集局長（右）

## 3研究所合同で一般公開を開催

北大祭期間中の6月9日(土)、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所では、これまでにない新たな試みとして3研究所合同で一般公開を開催しました。

たくさんの来場者で賑わいを見せた各会場の様子を報告します。

(低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所)

### 低温科学研究所

6月9日(土)に低温科学研究所において、一般公開を開催しました。本研究所では従前より8月上旬のオープンキャンパスに参加し、市民向けに一般公開を行っていましたが、今回から、より多くの方々に低温科学研究所を知っていただくために大学祭期間中に実施したものです。当日はあいにくの曇り空でしたが、受付での集計では来場者数465名を数え、初めての開催であったものの開始直後から多くの市民の方々にお越しいただきました。

一般公開では、「実験・体験コーナー」「展示・実験コーナー」のほか、

大学祭で実施しているスタンプラリーにも参加し、小さなお子さんでも体験できるものから大学生に焦点を合わせた比較的高度な実験、日頃体験できない $-50^{\circ}\text{C}$ の南極疑似体験まで幅広くとりそろえ、合計12のコーナーを設置しました。特に各種実験コーナーではお子さんを連れのお母さん、お父さんにも熱心に取り組んでいただき、また年配の方々からも最新の研究について質問がなされる等、各ブースは大盛況でした。

初めての試みであり、想像をしながら準備を進めてきましたが、お子さん

の笑顔や一般の方々の喜ぶ姿を見ると、この一般公開を実施した教職員も、また来年もやってみよう、良い研究を行おうという気持ちになり、市民の方々から元気をもらった非常に有意義な公開となりました。また、アンケート結果においても好評を得ており、来年度は要望を取り入れながら、よりよい公開を実施していきたいと考えていますので、皆様方のご協力をお願いしますとともに、ご来場いただいた一般市民の方々、関係者の皆様にお礼申し上げます。



模型とパネルを使つての研究紹介



防寒着を着て、これから南極疑似体験の旅

### 電子科学研究所

恒例の電子科学研究所の一般公開を、北大祭期間中の6月9日(土)に、電子科学研究所新棟(北キャンパス総合研究棟5号館)で行いました。受付での集計で来場者数が1,032名と、実に多くの市民の方々が訪れました。特に家族連れが多く、小さな子供を連れのお母さんやお父さんの姿が目立ちました。

一般公開では、子供から大人まで楽しめる体験型の展示やサイエンストーク(市民講座)を行い、昨年に引き続き創成研究機構も参加しました。体験型の展示は、光・物質・生き物・計算・環境という5つのテーマに関する電子科学研究所の14展示に加え、創成研究機構による1展示が行われました。来場者からは「子供たちが楽しそ

うで科学を好きになるキッカケになりそうですね」といった嬉しいご意見をいただきました。サイエンストークは、午前創成研究機構による宇宙の話1件と、午後電子科学研究所による脳の話2件が行われました。

北大祭で賑わう中央キャンパスから少し離れた北キャンパスで一般公開を行うに当たり、昨年に引き続きベロタク



シー（自転車タクシー）を4台、北18条門から電子科学研究所新棟まで無料運行し、往復合わせて延べ704名がペロタクシーを利用しました。

また、昨年に引き続き、札幌市教育委員会の後援をいただきました。小樽市、江別市、石狩市、北広島市、恵庭

市の教育委員会にもご協力いただき、総計500を超える学校にポスターを事前配付しました。北大祭とも連携して、北大祭のパンフレットやウェブにも掲載したほか、北大祭のスタンプラリーにも参加しました。初の試みとなった3研究所一般公開の合同開催について

は「北大祭と一緒に楽しめて良い企画だと思う」といったご意見をいただきました。

会場の玄関前は、終日、シャボン玉遊びをする子供で賑わい、研究の紹介の枠を超えて、研究所と市民が一体となった一日となりました。



光と色の化学実験に見入る参加者



ペロタクシーを待つ列

### 遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所（IGM: Institute for Genetic Medicine）は、北大祭の開催に合わせ6月9日（土）に市民向け一般公開を行いました。初の試みでしたのでどれくらいの来場者があるのか少々不安でしたが、当日は小さい子供から年配の方まで200名近い方々にお越しいただき、盛況でした。また、研究所の教員、学生を中心として50名を超えるボランティアが活躍してくれました。

内容としては、各研究室の研究内容

をパネルで紹介し、簡単な実験体験、顕微鏡観察のコーナーを設けました。講演会として3名の教授が登壇し、免疫や幹細胞に関するサイエンストークを行いました。また、希望者には実際の研究室をご覧いただき、詳細に研究内容について説明しました。各研究室では、小さいお子さんが白衣を着て写真を撮る様子や、高校生らしい女子生徒さんが熱心に質問している光景などが数多く見られました。来場者からは、「生命科学に興味わいた」、「いろいろ

な病気の克服のために頑張ってる研究してください」など、温かいコメントが寄せられました。

初めての試みであり、また準備期間が短かったこともあり、十分な内容に至っていなかったかもしれませんが、問題点を改善し来年以降も同様のイベントを行っていきたいと考えています。関係者の皆様のご支援をよろしくお願いします。



パネルを使っでの研究紹介



高岡晃教教授によるサイエンストーク

## 環境科学院で北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催

環境科学院では、6月9日（土）・10日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催しました。

今回は、例年に引き続き6回目の開催となりましたが、企画の内容は、3名の教員・研究員が研究内容をわかりやすく紹介する「環境サイエンストーク」、実験の一部を体験する15のテーマによる「環境サイエンスパフォーマンス」、環境科学院全20コースの研究

内容を紹介する「パネル展示」などが行われました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から親子連れの小学生や中・高・大学生・一般の方など750名余が訪れ、体験型の研究施設公開を楽しみました。

来場者にアンケート調査を実施したところ、「初めて来ましたが、スタッフの方にとっても丁寧に対応していただいたので楽しく実験に参加できました」、「子供達が興味を持っていました」

科学の窓口になってくれればと思います」、「環境科学院に進学したい気持ちが強くなった」などの評価をいただきました。

今後とも、企画の内容に改善を加え、市民の方々に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



会場入口の立看板



サイエンスパフォーマンス「ダイヤモンドを作ろう」



サイエンストークの様子

## 第1回スラブ研究センター公開講演会「中央アジアから見る世界の『今』」を開催

6月29日（金）、第1回スラブ研究センター公開講演会を人文・社会科学総合教育研究棟で開催しました。当センターは、年に約3回開く国際シンポジウムをはじめ、国内外の研究者を招いて先端的な研究を議論する場を多く設けており、また特定のテーマに沿って講師陣を集めた公開講座も開いていますが、専任教員が日常的に行っている研究の成果を一般向けに話す機会は必ずしも多くありません。そこで、専任教員の最新の研究内容やスラブ・ユーラシア地域の最新事情を、市民・学生・ジャーナリストなどに向け広く公開するための企画として、公開講演会を定期的に開催することにしました。

第1回となる今回は、「中央アジアから見る世界の『今』：『民主化』とユーラシア国際秩序再編」と題して、宇山智彦センター長が講演しました。講演

では、①エジプト、リビアなどで独裁政権が倒れる「アラブの春」で民主化が再び注目されているものの、世界的には1990年代末以降民主化が停滞しており、中央アジアでも大勢としては権威主義体制が継続する中で、部分的な民主化の試みや衝突が起きていること、②ロシア、中国、アメリカの進出に対して中央アジアの小国も自らの国益を積極的に追求していること、③グローバル化しても決して均質化しない世界の中で、国家間・社会層間の格差や体制の違いを利用した駆け引きが繰り返り広げられている様子が中央アジアを例によく見て取れること、などが語られました。講演会には約60人が出席し熱心な質問が出されました。

当センターは今後、年4回の定例公開講演会と、不定期の臨時公開講演会を開催する予定です。9月に野町素己

准教授、12月に望月哲男教授、来年3月に岩下明裕教授の講演を行うことを計画中で、詳細は決まり次第ホームページ等でお知らせします。

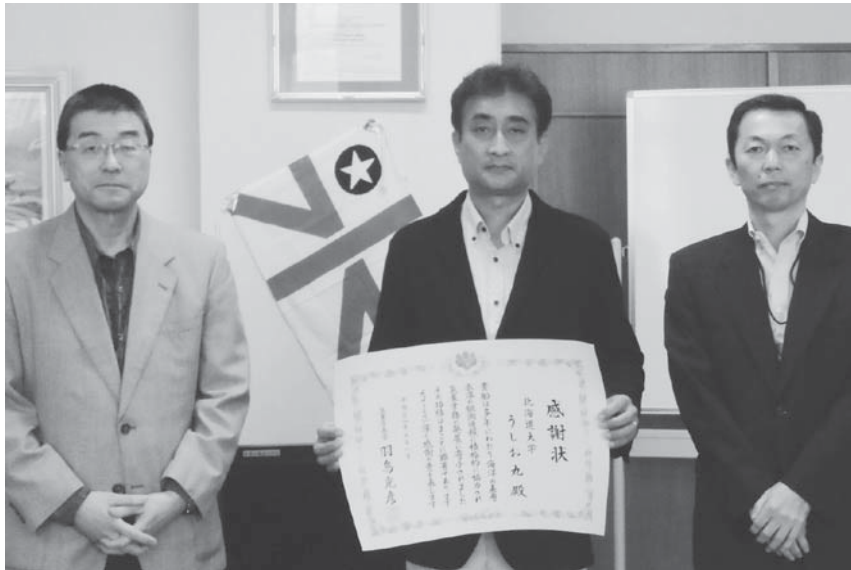
また、当センターの活動内容と公開講演会の趣旨に関する宇山教授の解説が、北海道新聞6月22日（金）夕刊に掲載されています。

（スラブ研究センター）



講演する宇山センター長と多くの参加者で埋まった会場

## 水産学部附属練習船うしお丸が気象庁長官表彰を受賞



贈呈後の記念撮影  
亀井うしお丸船長（中央）

水産学部附属練習船うしお丸が、多年にわたる「海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績」を評価され、平成24年度の気象庁長官表彰を受賞しました。

東京で行われた表彰式には、航海期間中のため出席できなかったことから、感謝状は6月8日（金）に嵯峨直恆水産科学研究院長より亀井佳彦うしお丸船長に手渡されました。

亀井うしお丸船長は、「本船の観測海域は北海道周辺の限られた海域であり、特に冬季の観測は厳しい条件の下で行っていますが、今回表彰を受け、大変光栄に感じるとともに、乗組員には大きな励みになります。これからも観測を通し地域社会へ貢献していきたい。」と受賞の喜びを語りました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



感謝状贈呈の様子

### うしお丸紹介

竣工：平成4年9月28日  
総トン数：179トン  
全長：39.39m  
乗組定員：33名  
年間航海日数：約170日  
航海海域：北海道周辺



## 法科大学院で弁護士による説明会を開催



熱心に聴く学生

法科大学院では、6月5日（火）午後6時15分から、文系軍艦講堂8番教室において、法科大学院生及び同修了生を対象とする説明会を開催しました。今回お招きしたのは、TMI総合法律事務所に所属されている渡辺伸行弁護士、荻野敦史弁護士、小坂準記弁護士の3名で、このうち、小坂弁護士は本学法科大学院の出身者でもあります。

TMI総合法律事務所は、弁護士が約250名、弁理士が約50名所属する国内最大手の法律事務所であり、5大法律事務所の一角を占めています。

説明会では、まず渡辺弁護士から、弁護士業務に関する詳細な説明がされ、「弁護士の1日」やキャリア・アップのステージが解説されるとともに、荻野弁護士からご自身の経験談や弁護

士事務所を訪問する際の注意点などが説明されました。また最後に、小坂弁護士から、法科大学院での過ごし方や持つべき意気込みが披露されました。

本学の法科大学院は多くの実務家教員を擁し、学生は裁判官、検察官、弁護士といった実務法曹に日常的に接する機会がありますので、弁護士の業務内容についてはある程度の理解がありますが、東京の大手法律事務所の様子については必ずしも通じていない部分もあります。そこで、今回、3名の先生にお越しいただいたところ、貴重な機会であっただけに、学生の関心は極めて高く、当日は80名以上の参加者があり、また説明会の後には熱心な質疑応答がなされ、さらに時間の都合上、質疑応答を打ち切った後も、個人的に質問する学生が後を絶たず、結局、3



講演する渡辺弁護士



講演会の様子

名の先生方には午後9時までお付き合いいただくこととなりました。長時間であったにもかかわらず、学生の立場に立った、終始懇切丁寧なご対応をいただき、非常に好評な会となりました。

このような説明会が、法科大学院生の勉学への意欲をさらにかき立て、社会的問題関心を備えた実務法曹になるためのステップとして役立つことを期待しているところです。

なお、6月7日（木）には、今年度の司法試験の短答試験の合格発表がありました。本学の法科大学院の合格率（対受験者比）は77.4%で、74校中9位となり、前年の10位（76.3%）から順位を1つ上げました。

（法学研究科・法学部）

## 会計専門職大学院で公認会計士・監査審査会委員の特別セミナーを開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、6月5日（火）に人文・社会科学総合教育研究棟W102教室で北海道財務局の協力を得て、公認会計士・監査審査会委員の廣本敏郎氏を講師に招き、特別セミナーを開催しました。

公認会計士・監査審査会は、金融庁において公認会計士試験の実施のほか、監査法人及び公認会計士が行う監査の品質についての審査及び検査などの業務を所掌しています。

廣本委員は、「公認会計士の使命」とのテーマで、公認会計士・監査審査会の業務と公認会計士の使命について講演されました。

監査監視機関としては、日本公認会計士協会が監査法人に対して実施しているレビューを前提に審査及び検査を行っていることと、今までの審査及び検査の実施状況について説明がありました。

また、試験実施機関としては、公認会計士合格者数は中・長期的には増加基調にあり、最近待機合格者の問題もあるが、現在の経済社会では会計リテラシーを持った人員が必要とされていること、市場経済における会計の意義や実体経済を支える金融・資本市場において会計・監査専門家に期待されている役割について説明がありました。

最後に、学生には、公認会計士試験にチャレンジし、現代のグローバル化、複雑化した経済社会において重要な会計、監査の知識を身に付けて我が国の経済の健全な発展のために活躍して欲しい旨が述べられました。

当日は、本学の経済学部及び経済学研究科の学生と教員を中心に58名が参加し、盛況のうちに講演会を終了しました。

（経済学研究科・経済学部）



公認会計士・監査審査会委員の廣本氏



熱心に講演を聴く学生・教員

## 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、6月15日（金）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会は、公認会計士がどのような業務を行っているのか、最新の資格試験制度の現状、そして監査法人への就職状況についての情報を学部生と大学院生に提供することで、経済学部ばかりでなく広く本学の学生に公認会計士についての正しい認識をもってもらい、その資格取得を目指す学生には具体的な指針を提供することを目指しています。今年は学部生から大学院生までの学生21名の参加を得ました。

説明会では、後藤道博日本公認会計士協会北海道会広報委員会委員長の司会進行により、酒井 純日本公認会計

士協会北海道会会長による説明会の趣旨説明と、米山祐司会計専門職大学院長による挨拶の後、三宅英彦日本公認会計士協会会員が公認会計士業務と平成23年度試験合格者の状況と採用状況について説明しました。

さらに、公認会計士試験に合格してから会計士業務に携わっている若手会計士の金沢日和日本公認会計士協会北海道会準会員（本学会計専門職大学院出身）と山縣 潤日本公認会計士協会北海道会準会員（本学法学部出身）から、ご本人の公認会計士試験の受験体験と現在の実務体験についてのお話がありました。

その後、質疑応答が行われ、各講師は熱心な参加学生から多くの質問を受けました。

（経済学研究科・経済学部）



公認会計士業務等の説明をする  
日本公認会計士協会会員 三宅氏



会計士試験受験と実務体験談について話す  
金沢準会員（会計専門職大学院出身）

## 経済学部で成績優秀者表彰式を挙行



本年度の受賞者

7月5日（木）、経済学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」及び「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度に修得した成績がGPA順位の上位者で、かつ、一定単位以上の学部専門科

目を履修した者のうちから、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考し表彰するとともに、Dean's List（成績優秀者名簿）に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としています。今年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が表彰されました。

また、「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」は、英語力の継続的な向上を自発的に図ろうとする学生に対するインセンティブとして教育助成金等を授与するもので、エントリーした学生全員にTOEIC受験料の半額相当の図書カードを授与し、さらに指定期間において、そのスコアの向上が特に顕著であった者に対し特別表彰するものです。今回は3年次学生2名、4年次学生1名の計3名が特別表彰されました。

表彰式では、吉見 宏経済学部長が出席者全員に表彰状と副賞を手渡した後、賞賛と激励の言葉を述べました。引き続き行われた懇親会では、新渡戸賞を受賞した本学部の2年次学生も招待され、親睦を深めました。経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組みを行っていく予定です。

（経済学研究科・経済学部）

## 経済学部がプレゼン・ディベート大会に向けてセミナーを開催

7月5日（木）の午後1時から午後4時15分まで、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、経済学研究科・経済学部、地域経済経営ネットワーク研究センターの主催による第9回プレゼン・ディベート大会に向けたセミナー「原発は是か非か！？－エネルギー政策と北海道経済－」を開催しました。セミナー講師として、工学研究院の奈良林直教授と近久武美教授、法学研究科の鈴木一人教授（講演順）を迎えました。

奈良林教授は、「福島教訓と人類の持続的な発展のための原子力の活用」という題目で講演を行い、原子力安全規制が形骸化したため福島第1原子力発電所事故の被害は甚大なものになったが、内外の他の原子力発電所と同等の安全対策が取られていれば防げ

たものであり、エネルギー資源の将来、地球温暖化問題、再生可能エネルギーのコストを考えると、より安全性を向

上させたいという内容でした。

近久教授からは、「中長期的エネル



熱心に講演を聴く参加者

ギー「インフラ形成と経済振興」という  
 題目で、再生可能エネルギーを中長期  
 的なエネルギー源の主力とする可能性  
 について説明があり、また、そのため  
 短期的にはある程度コスト高になっ  
 てもその導入を支援していくことが、長  
 期的には環境にとっても経済にとつ  
 ても有益であろうと話しました。

鈴木教授は「原発を動かすリスクと  
 動かさないリスク」と題して、事故の  
 前後で地元、その他の国民、政府のそ  
 れぞれでリスクに対する意識が大きく  
 異なってきたことを、時点、立場ごと  
 のリスク認識の中身についてわかりや  
 すく説明しました。しかし最終的にど  
 ちらのリスクを選択するかは、価値判

断の問題なので、理性的に民主的な議  
 論を行って決断する政治的手続きの形  
 成が重要との指摘がありました。

講演後は、3名の講師及びコーディネ  
 ーターを務めた地域経済経営ネット  
 ワーク研究センターの町野和夫セン  
 ター長による、セミナーテーマに関す  
 る包括的なパネルディスカッションが  
 行われ、安全規制の在り方、長期的な  
 エネルギー源構成などについての議論  
 を行い、またディベートに際してのア  
 ドバイスがありました。10月27日(土)  
 に開催される経済学部主催・第9回  
 プレゼン・ディベート大会では、本セ  
 ミナーの内容を活用した大きな成果が期  
 待されます。

最後に本セミナーに参加していただ  
 いた皆様にも、この場を借りてお礼申  
 上げます。

(経済学研究科・経済学部)



パネルディスカッションの様子

## 附属図書館で2012年 日・EUフレンドシップウィーク 「フィンランド展」を開催

附属図書館は、EU情報センターに  
 指定されており、EU公式資料等の所  
 蔵・提供を行っています。また、日本  
 とEUの交流イベントである「日・EU  
 フレンドシップウィーク」に毎年参加  
 しています。今年もEU加盟国のなか  
 からフィンランドを取り上げ、6月1  
 日(金)から14日(木)まで、3階ラ  
 ウンジにて「フィンランド展 ～もう  
 ひとつの“北の大地”へ飛び出そう～」  
 を開催しました。

フィンランドと本学との関係は、平  
 成23年3月にフィンランドセンター北  
 海道事務所が札幌キャンパス内に開設  
 され、平成24年4月には本学3番目と  
 なる海外オフィスがフィンランドに設  
 立される等、近年より密接なものとな  
 っています。フィンランドへの関心を  
 さらに深めていただくために、パネ  
 ル展示、フィンランドに関する講義の  
 ビデオ上映、写真展示、広報資料の配  
 布を行いました。

パネル展示では、地理や歴史、EU  
 との関わりといった基本的な情報のほ  
 かに、「フィンランドにおける本学の  
 協定校と北大ヘルシンキオフィスの紹  
 介(国際本部による資料提供)」「北大

で学んでいるフィンランド人留学生の  
 留学体験記」「フィンランド関係の講  
 義を担当している高等教育推進機構  
 池田文人准教授と外国語教育センター  
 水本秀明非常勤講師へのインタビュー」  
 といった、本学ならではの切り口で  
 フィンランドを取り上げました。

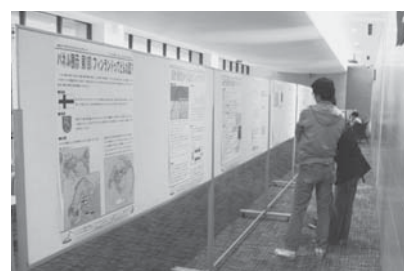
展示会場奥のモニターでは、オー  
 プンコースウェアの協力を得て、全学  
 教育科目「ムーミンの国へようこそ！  
 (平成22年度)」(池田准教授)のビデ  
 オ上映を行いました。また、フィンラ  
 ンドの四季をテーマに、フィンランド  
 センター北海道事務所提供の写真を展  
 示しました。さらに、国際本部の協力  
 のもと、6月1日(金)にフィンラ  
 ンドで行われた、北大ヘルシンキオフィ  
 ス開所式の写真もいち早く来場者に  
 ご覧いただきました。

会場内で受け付けたアンケートから  
 は、「フィンランドについてあまり知  
 らなかったが、身近に感じられるよ  
 うになった」、「フィンランドに行きたく  
 なった」、「写真がきれいよかった」  
 といった声が寄せられました。

(附属図書館)



展示会場の様子



パネルに見入る学生

## 工学部で「第1回心のケアに関する講習会」を開催

工学部では、6月1日（金）午後4時30分からアカデミックラウンジ3において、工学系部局なんでも相談室カウンセラーの石原一人先生による「第1回心のケアに関する講習会」を開催し、学生・教職員合わせて53名の方々が参加しました。

講習会では、「学生生活の心のケア」というテーマで、ストレス疾患などの知識や予防、ストレス対処などについての話があり、その後、質疑応答を行いました。

終了後のアンケートには、参加者から、「実際の事例を交えた説明が分かりやすく、面白く聞くことができた」、「ストレスからくる様々な思考・身体症状や気分等への影響がどのように表れるかについて知ることができ、興味深かった」、「うつ病は、再発率が高いので、1回目の治療が重要であることがわかった」、「ストレスマネジメントの項に挙げられている方法の多くが、

「甘え」や「逃げ」と見られかねない事柄である点が考えさせられた」、「WHOによる健康の定義（健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされている状態にあることをいいます。）を知り、目からうろこが落ちた」等の感想や印象に残る言葉が寄せられました。

また、講習会に参加した感想として「面白かった」「やや面白かった」の回答が多く寄せられ、心のケアに対する関心も「非常に深まった」「深まった」「やや深まった」が9割以上あり、心のケアに対する関心の深まりが感じられました。

工学部では今後も、教職員向けの心のケアに関する講習会を開催する予定です。

（工学院・工学研究院・工学部）



講習会の様子



心のケアについて話す石原先生

## 薬学部でメンタルヘルスケア講習会を実施

薬学部では、6月13日（水）午後1時から、薬学部臨床薬学講義室において、主に学部2年次生を対象としたメンタルヘルスケア講習会を開催しました。

この講習会は、学生がメンタルヘルスケアについての理解・関心を深め、快適なキャンパスライフを送ることを目的とし、保健センターカウンセラーで臨床心理士である川島い氏を講師に迎え、「メンタルヘルスケアの必要性—ストレスマネジメントの実際—」という演題で行われました。

講習会では、ストレスに対処していく実際の方法を中心に講演が行われました。川島氏から、自分自身の思考を理解することによる内面からの対処などについて具体的な解説があり、ワークシートを用いて考え方のトレーニン

グを行いました。さらに、アルコールとの接し方やハラスメントへの対応など、学生生活で直面しうる心の問題を引き起こすさまざまな状況についても説明があり、また、リラクゼーションの実践を行って、気持ちを落ち着ける方法も学びました。当日は75名の参加者があり、川島氏の説明に熱心に聴き入っていました。

参加者からは、「自分を見つめ直す良い機会になった」「快適な睡眠をとるための工夫がわかった」「ストレスにさらされた時に、そのことを自覚し、解決するための糸口の見つけ方がわかった」「心が楽になった」などの感想が多く寄せられました。

（薬学研究院・薬学部）



講習会の様子



講演する保健センター 川島カウンセラー



## 平成24年度国立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議を開催



活発な議論が行われた合同会議

6月11日(月)・12日(火)の両日、北海道大学歯学部及び北海道大学病院が当番校となり、平成24年度国立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議をホテル札幌ガーデンパレスで開催し、11日(月)に病院長会議、学部長・病院長会議(合同会議)及び懇親会を、12日(火)に懇談会を行いました。

同会議には、全国の国立大学歯学部長・歯学部附属病院長をはじめ、九州歯科大学歯学部長・病院長と全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議事務局担当教授が出席したほか、文部科学省からは高等教育局医学教育課の村田

善則課長ほか4名、同国立大学法人支援課の米澤聡司課長補佐ほか1名、厚生労働省からは医政局歯科保健課の青木仁主査が出席し、その他各大学の関係者とあわせて66名が出席しました。

合同会議では、村田課長から歯学教育の改善・充実に関するこれまでの取り組み及び今夏の電力需給対策等について、米澤課長補佐から平成24年度国立大学及び国立大学附属病院の予算、大学改革を巡る昨今の状況及び大学改革実行プランについて、青木主査からは歯科保健医療を取り巻く最近の状況について説明があり、その後質疑応答

が行われました。

また、病院長会議では、歯科医師臨床研修の相互評価や医療事故防止のための相互チェックの結果について報告や協議がなされたほか、合同会議では、秋入学、歯学部の優秀な人材の確保、臨床教育の充実及びグランドデザイン提言の取り組み状況等について、各大学の状況が紹介されるとともに活発な議論が行われました。

(歯学研究科・歯学部)



病院長会議で挨拶する福田諭病院長と議長の飯田順一郎副病院長



合同会議で挨拶する鈴木邦明歯学部長と文部科学省・厚生労働省からの出席者



懇親会で挨拶する山口佳三理事・副学長

## 日本ハムファイターズが院内学級を訪問



院内学級児童とキャッチボールする加藤選手

6月15日(金)に北海道日本ハムファイターズが、病気と闘う子供たちを勇気づけるために院内学級を訪問しました。

院内学級への訪問は今回で6回目を数え、毎年、入院中の子供たちが大変楽しみにしているイベントです。今年は、栗山英樹監督、吉川光夫投手、鶴岡慎也捕手、加藤政義内野手、陽 岱鋼外野手の5名に来院していただきました。

最初に栗山監督らが訪れた病院長室

では、病院長の代理として、安田和則スポーツ医学診療科長から「今後も本院はファイターズを医療面からサポートしていきたい」と挨拶があり、島田利正球団代表から「北大病院のサポートには感謝している。今後ともよろしくお願ひしたい」といった旨の謝辞が述べられました。

監督、選手は本院6階の運動療法室で、院内学級の子供たちとキャッチボールや記念撮影会、質問タイムなどを通して触れ合いました。

院内学級の児童代表からは、応援のメッセージが書き込まれたフラッグが栗山監督に手渡され、監督から子供たちにファイターズグッズのプレゼントが贈られました。

また、病室から出られない子供たちについては、小児科病棟まで足を運んでいただき、病室を一つずつ回って子供たちを励ましてくれました。

(北海道大学病院)



栗山監督・選手の挨拶を受ける  
安田スポーツ医学診療科長(左)と川畑いつみ看護部長(右)



フラッグを受け取る栗山監督

## 総合博物館で企画展示「藻類が人類の未来を救う」を開催

総合博物館では7月10日（火）から9月23日（日）まで、創立60周年を迎える日本藻類学会との共催で、企画展示「藻類が人類の未来を救う」を開催しています。

藻類とは、コケ植物、シダ植物、種子植物を除く主に水圏に生息する植物の総称で、日本人に馴染み深いコンブ、ワカメ、ノリ等の食用海藻も藻類に含まれます。本学における海藻分類学の研究は、札幌農学校時代、宮部金吾博士らによるコンブ研究に始まりました。現在でも世界的な藻類研究拠点のひとつとして知られており、質・量ともに世界でも屈指の藻類標本コレクションを擁しています。

藻類の多くは、光の豊富な浅い水中で生活しています。そのため、われわれ人類の活動による水質悪化や、埋め立てによる生育地の消失などにより、多くの種が絶滅の危機に瀕しています。しかし地球の歴史を見ると、むしろ藻類が地球環境を激変させてきたことがわかります。大量の酸素を放出し

た太古の藻類は、生物の進化の方向に大きな影響を与えると同時に、鉄や石油といった、現代文明を支える資源をも生み出してきました。

今回の企画展示では、当館が収蔵する環境省レッドデータ掲載の絶滅危惧藻類標本をはじめ、関係研究機関・団体の全面的な協力により、白亜紀の藻類が堆積して形成されたイギリス海峡のチョーク、食用をはじめ医薬品・化粧品などの様々な分野で利用される藻類、未来のエネルギー資源としての藻類などを多数展示するほか、特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」の生体展示を行っています。

また、理学部第2期生であり、道内各地の水産試験場長を歴任された川嶋昭二博士による細密な海藻画62点を一堂に展示し、知床を拠点に活躍するカメラマン関 勝則氏の水中写真もご覧いただけます。

（総合博物館）



阿寒湖のマリモ



アサクサノリ（川嶋昭二博士画）

### 関連セミナー

#### 「マリモはなぜ阿寒湖で丸くなるのかー偶然の重なりがもたらす生物の球化現象」

講師：若菜 勇（釧路市教育委員会マリモ研究室）

日時：8月11日（土） 13:30～15:30

会場：総合博物館1階「知の交流」コーナー

#### 「私の藻食論ー海藻を食べて健康になりましょう」

講師：館脇正和（北海道大学名誉教授）

日時：9月8日（土） 13:30～15:30

会場：総合博物館1階「知の交流」コーナー

## 大学文書館で第2代総長南鷹次郎関係資料を受贈

6月22日（金）、大学文書館では、北村行伸氏（一橋大学経済研究所教授）より、第2代総長南鷹次郎にまつわる資料20点をご寄贈いただきました。北村行伸氏は、南鷹次郎のご曾孫にあたります。

南鷹次郎（1859-1936）は、1881（明治14）年札幌農学校を第2期生として卒業後、開拓使・農商務省の出仕として母校に勤務し、1883年助教に就任、1889～1927年にかけて教授を務めました。約半世紀にわたって、農学全般の

研究教育に従事しながら、農場長として農場経営にもあたり、母校のために尽力しました。1919～1927年には初代農学部長、1930～1933年には第2代総長の重責も担いました。

この度、受贈した資料は、（1）墨蹟2点、（2）写真11点、（3）勲章2点（勲二等旭日重光章、勲一等瑞宝章）、（4）弔電などです。

墨蹟は、「魚躍海中天 鳶飛月窟地南鷹」（関防印：清麗閑雅、朱文印：北農、白文印：南鷹次郎）、「山紫水明

昭和壬申夏 南鷹」（関防印：不息、白文印：南鷹次郎、南鷹）と揮毫されています。写真には、1893年世界博覧会日本審査官として渡米した際にシカゴで撮影したもの、勲二等旭日重光章をつけた大礼服姿のもの、自宅での和装姿のものなどがあります。

今後、大学文書館では、歴代総長資料として大切に保管し、展示等により活用してまいります。

（大学文書館）



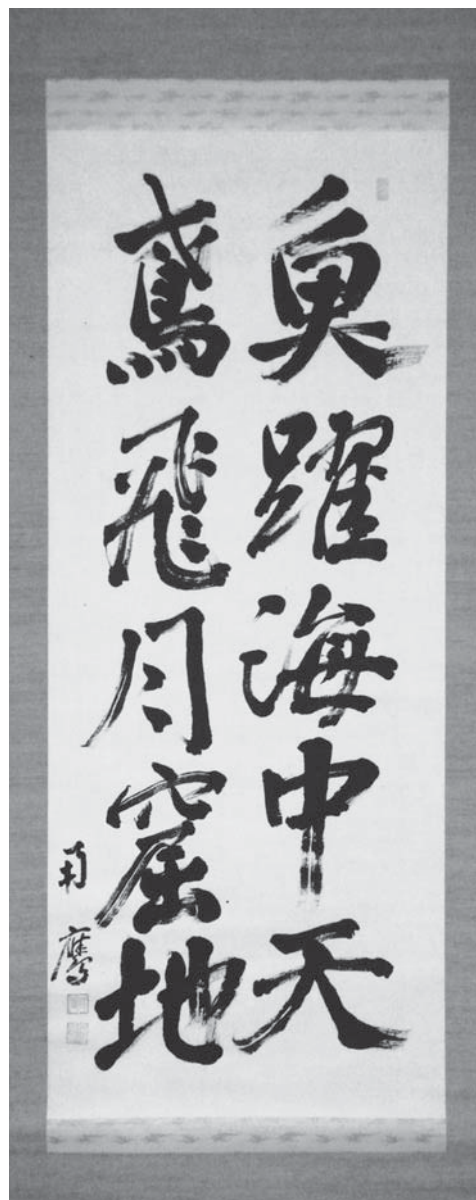
シカゴにて（1893年）



自宅にて（1930年代）



勲二等旭日重光章・勲一等瑞宝章



墨蹟

## ■お知らせ

# 「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成23年度）」の概要について

「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成16年9月10日閣議決定）等に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成23年度分の概要をお知らせします。

### 平成23年度における役員の報酬等の支給状況

	役員10人（法人の長、理事（7人）、監事（2人））
年間報酬等の総額	140,294千円

### 平成23年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注）	平均年齢	平成23年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	871人	40.9歳	5,335千円
教育職員（大学教員）	1,787人	47.9歳	8,448千円
医療職員（病院看護師）	469人	37.3歳	4,945千円

注）「比較対象人員数」は、平成24年4月1日現在、在職している常勤職員（平成23年度途中の採用者及び異動者を除く。）である。

### 総人件費

区 分	平成23年度	平成22年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 28,232,223	千円 28,094,016	千円 138,207	% 0.5
退職手当支給額（B）（注1）	千円 3,509,835	千円 4,015,119	千円 △ 505,284	% △ 12.6
非常勤役員等給与（C）（注2）	千円 11,574,782	千円 11,255,976	千円 318,806	% 2.8
福利厚生費（D）（注3）	千円 4,980,653	千円 4,692,136	千円 288,517	% 6.1
最広義人件費（A + B + C + D）	千円 48,297,495	千円 48,057,247	千円 240,248	% 0.5

注1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2）「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他の公表事項）に掲載しています。（<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

## 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における連続休暇取得の奨励及び省エネルギー対策のため、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 記

#### 1. 実施期間・体制について

期 間：8月13日（月）～15日（水）

体 制：原則として休日の期間と同様の体制とする

#### 2. 郵便物・宅配便について

郵便物：集配しない

宅配便：原則として警務室にて受理・保管する

#### 3. 緊急時の体制について

事故時の対応は原則として緊急連絡体制による

詳細については、工学系事務部総務課（TEL. 011-706-6115）までお問い合わせください。

（工学研究院，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター，知識メディア・ラボラトリー，環境ナノ・バイオ工学研究センター，トポロジー理工学教育研究センター）

## レクリエーション

### 教職員テニス大会の開催

7月7日（土），工学部・農学部各コートで職員硬式テニス同好会主催による学内シングルス大会を開催しました。参加者は総勢20名で，結果は次の通りです。

#### ◆男子A級 平成24年7月7日（土） 会場：工学部コート 担当：横井 Aブロック

	堀口	仙北	川岸	吉竹	勝：負 (ゲーム数)
堀口 敬 (工)					(def.)
仙北 久典 (工)			6 - 0 ○	6 - 3 ○	2 : 0 1
川岸 誠弥 (理)		0 - 6 ×		6 - 4 ○	1 : 1 2
吉竹 忍 (図)		3 - 6 ×	4 - 6 ×		0 : 2 3

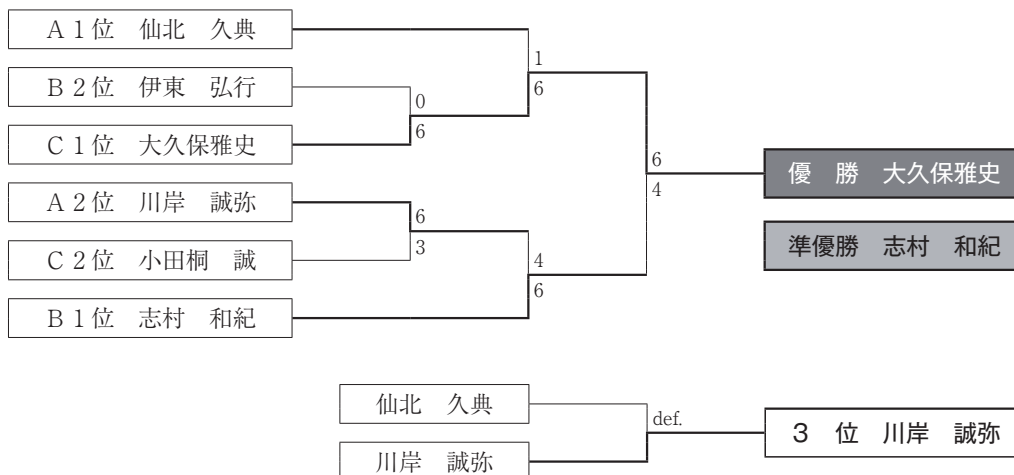
#### Bブロック

	志村	藤田	金川	伊東	勝：負 (ゲーム数)
志村 和紀 (工)		4 - 6 ×	6 - 0 ○	6 - 0 ○	2 : 1 1 (16-6)
藤田進一郎 (工)	6 - 4 ○		6 - 2 ○	1 - 6 ×	2 : 1 3 (13-12)
金川 眞行 (事)	0 - 6 ×	2 - 6 ×		2 - 6 ×	0 : 3 4
伊東 弘行 (工)	0 - 6 ×	6 - 1 ○	6 - 2 ○		2 : 1 2 (12-9)

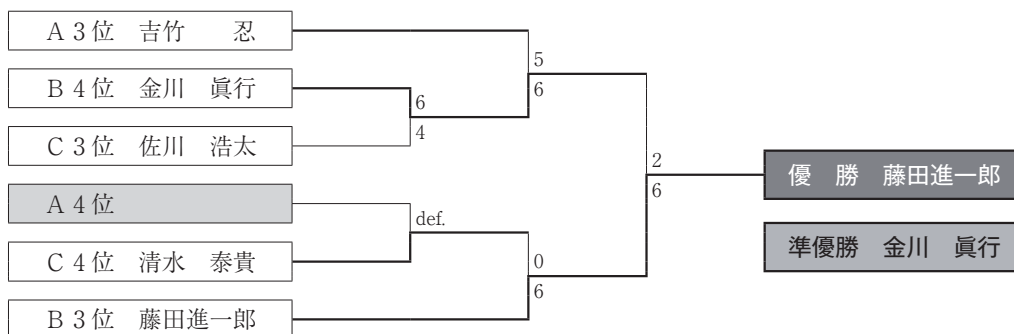
## Cブロック

	小田桐	佐川	大久保	清水	勝：負 (ゲーム数)
小田桐 誠 (工)		6 - 3 ○	1 - 6 ×	6 - 2 ○	2 : 1 2
佐川 浩太 (国)	3 - 6 ×		2 - 6 ×	6 - 1 ○	1 : 2 3
大久保雅史 (病)	6 - 1 ○	6 - 2 ○		6 - 0 ○	3 : 0 1
清水 泰貴 (病)	2 - 6 ×	1 - 6 ×	0 - 6 ×		0 : 3 4

## ☆1-2位トーナメント



## ☆3-4位トーナメント



- ・全試合6ゲーム先取ノードバンテージ
- ・順位は、①勝ち数の多い選手、②得ゲーム-失ゲームの差の多い選手、③当該選手同士での勝者、④じゃんけんで勝った選手、の順で決定する。



男子A級  
3位：川岸，優勝：大久保，準優勝：志村

◆ **男子B級** 平成24年7月7日(土) 会場：農学部ハードコート 担当：坂本

	高山	鈴木	中鉢	對木	勝：負 (ゲーム数)
高山 大樹(文)		6-2 ○	0-6 ×	6-5 ○	2:1 2
鈴木 敦生(理)	2-6 ×		3-6 ×	3-6 ×	0:3 4
中鉢 健太(工)	6-0 ○	6-3 ○		6-2 ○	3:0 1
對木 文宏(法)	5-6 ×	6-3 ○	2-6 ×		1:2 3

優勝 中鉢 健太

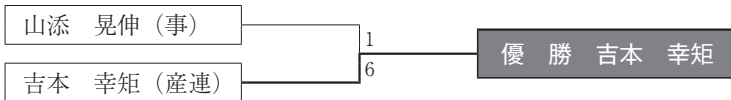
準優勝 高山 大樹

- ・全試合6ゲームマッチ(6オール12ポイントタイブレーク)
- ・順位は、①勝ち数の多い選手、②得ゲーム率(総得ゲーム数/総ゲーム数)の高い選手、③当該選手同士での勝者、④じゃんけんで勝った選手、の順で決定する。



男子B級  
3位：對木、優勝：中鉢、準優勝：高山

◆ **男子C級** 平成24年7月7日(土) 会場：農学部クレコート 担当：坂本



- ・6ゲーム先取ノーアドバンテージ



男子C級 優勝：吉本

◆ **女子オープン** 平成24年7月7日(土) 会場：農学部クレコート 担当：坂本

	坂本	中津川	柏原	勝：負 (ゲーム数)
坂本ゆう子(歯)		1-6 ×	6-1 ○	1:1 2
中津川麻弥(病)	6-1 ○		6-0 ○	2:0 1
柏原 麻美(病)	1-6 ×	0-6 ×		0:2 3

優勝 中津川麻弥

準優勝 坂本ゆう子

- ・全試合6ゲーム先取ノーアドバンテージ
- ・順位は、①勝ち数の多い選手、②得ゲーム-失ゲームの差の多い選手、③当該選手同士での勝者、④じゃんけんで勝った選手、の順で決定する。



女子オープン 優勝：中津川

(職員硬式庭球同好会)



## ■ 研修

### 研修名：平成24年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：平成24年 6 月18日～平成24年 6 月20日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



特別講話（新田孝彦理事・副学長）



講義「メンタルヘルス」  
（医学研究科 朝倉 聡准教授，産業医）



演習・グループワーク等

（総務企画部人事課厚生労務室）

### 研修名：平成24年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

開催期間：平成24年 6 月20日～平成24年 6 月21日

開催場所：学術交流会館第4会議室

研修目的：会計事務に従事する職員に、実務に必要な本学の会計制度及び会計業務実施基準等に関する基本的知識を付与することを目的とする。



研修の様子（収入金・学納金等について）



グループ演習（調達事務手続きについて）

（財務部主計課）

## 博士學位記授与

6月29日(金)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は29人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は5人でした。

なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部教務課)

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士(文学)	佐藤剛介		自尊心が主観的幸福感に与える影響に対する関係流動性の干渉効果：社会生態学的アプローチによる検討 主査：教授 結城雅樹
博士(法学)	石神圭子		アメリカにおける草の根運動の力と新たな政治空間の模索 - ソール・アリンスキーによるコミュニティ組織化運動の哲学と実践を中心に - 主査：教授 空井 護
	川股修二		税理士制度と納税環境整備 - 税理士法33条の2の機能 - 主査：教授 山下竜一
	韓 巍		事業者団体の活動規制の研究 - 独禁法8条3号・4号を中心として - 主査：准教授 中川晶比兒
博士(医学)	大浦哲		Long-term hepatic allograft acceptance based on CD40 blockade by ASKP1240 in nonhuman primates (サル肝移植におけるCD40シグナル遮断薬ASKP1240によるグラフトの長期生着) 主査：教授 清野研一郎
	後藤了一		The immunomodulatory effect of nuclear factor- $\kappa$ B inhibition by dehydroxymethylepoxyquinomicin in combination with donor-specific blood transfusion (新規 Nuclear factor kappa B 阻害剤 Dehydroxymethylepoxyquinomicin とドナーリンパ球静脈投与の併用による免疫反応修飾効果) 主査：教授 松居喜郎
	若山顕治		Successful Transplantation of Rat Hearts Subjected to Extended Cold Preservation with a Novel Preservation Solution (新規臓器保存液によるラット心臓の長期冷保存の検討) 主査：教授 松居喜郎
	高橋やす宏		Isolation and characterization of novel mutations in CDC50, the non-catalytic subunit of Drs2p phospholipid flippase (Drs2 リン脂質フリッパーゼの非触媒サブユニットCDC50の新規変異体の単離と解析) 主査：教授 平野 聡
	野口卓郎		細胞内腫瘍抗原に対する新規抗体療法の開発 主査：教授 志田壽利
	安田耕一		$^{18}$ F-fluoromisonidazole (FMISO) and new PET system with semiconductor detectors and a depth of interaction (DOI) system for intensity-modulated radiation therapy (IMRT) for nasopharyngeal cancer (放射線治療抵抗性の低酸素癌細胞に対する最適な線量投与を目標とした、FMISO-PETを使用した放射線治療法の臨床試験確立のための基礎的研究) 主査：教授 平野 聡
	阿内三成		Ni-低 Al-Pt 合金の水蒸気含有雰囲気中の高温酸化挙動に関する研究 主査：准教授 林 重成
博士(工学)	河合功治		新規有機化合物の設計による表面制御 主査：教授 米澤 徹
	稲葉まさし		Kinetic Theory on Sound Waves (音波に関する気体分子運動論解析) 主査：教授 渡部正夫
	劉 英 傑		A levelset approach for a premixed flame based on a new concept of flame speed (新しい火炎速度の概念に基づく予混合火炎モデルのためのレベルセットアプローチ) 主査：教授 大島伸行
	石井辰矢		Biochemical analyses of proinsulin C-peptide-binding protein and its binding properties (プロインスリンC-ペプチド結合タンパク質とその結合特性の生化学的解析) 主査：教授 木村和弘
博士(獣医学)	大野 実		カロテノイドおよびレチノイン酸による転写調節因子アリルヒドロカーボン受容体の新規調節機構について 主査：教授 石塚真由美

博士 (獣医学)	しま だ こう へい 島 田 光 平	ニューロペプチドYの褐色脂肪組織機能におよぼす影響と転写因子STAT3の活性化 主査：教授 木村和弘
博士 (工学)	ミョウ タ イ Myo Htaik	Study on PV-ESS Hybrid System for Power Salvaging and Smoothing under Fault Occurrence and Isolated Operation 事故時及び自立運転時の電力変動抑制のためのPV-ESSハイブリッドシステムに関する研究 主査：教授 北 裕幸
博士 (水産科学)	ソン へ じん 宋 恵 眞	Studies on growth and reproduction of the Japanese common squid, <i>Todarodes pacificus</i> (Cephalopoda : Ommastrephidae) (スルメイカの成長と成熟に関する研究) 主査：教授 高津哲也
	いい むら くる りん 飯 村 九 林	Molecular studies on the evolution of teleost fish scales from odontogenic component on the dermoskeleton of armored fish (Ostracodermi). (魚類の鱗進化に関する分子生物学的研究-硬骨魚類の鱗は甲冑魚類外骨格の歯様組織から進化した) 主査：教授 足立伸次
博士 (環境科学)	うえ た あき ひろ 上 田 哲 大	Isotopic study on the sources of atmospheric water vapor of taiga forest in eastern Siberia (水安定同位体比を用いた東シベリアタイガ林の大気水蒸気の起源に関する研究) 主査：教授 杉本敦子
	さ とう たつる 佐 藤 建	Dynamics of the Antarctic ice sheet with coupled ice shelves (南極氷床変動における棚氷の影響) 主査：教授 グレーベ ラルフ
博士 (理学)	くろ だ ひらく 黒 田 拓	Authoring, Publishing and Semantics of Mathematical Documents on the Web (Web上における数学的ドキュメントの編纂とセマンティクスに関する研究) 主査：准教授 行木孝夫
	なが い たか ゆき 永 井 隆 之	THE GEOMETRY OF HYPERSURFACES IN EUCLIDEAN SPHERE (ユークリッド球面内の超曲面の幾何学) 主査：教授 泉屋周一
	グ エン マイン Nguyen, Manh クオン Cuong	A Mechanistic Study on Ion-Exchange Processes in Single Resin Microparticles Based on Spectroscopic Techniques (分光学的手法による単一微粒子中におけるイオン交換過程に関する研究) 主査：教授 喜多村昇
	シドル ナイドゥ Siddulu Naidu タラパネニ Talapaneeni	Synthesis of metal free mesoporous CNx materials and their applications as functional materials (金属元素を含まないCNxの合成とその機能性材料としての応用) 主査：客員教授 森 利之
	ソン 孫 宇 孫 宇	Electrochemical and Photoelectrochemical Hydrogen Evolution Reaction and Carbon Dioxide Reduction at Si (III) Electrode Modified by Molecular Layer with Viologen Moieties and Metal complexes (ビオローゲン基と金属錯体を含む有機単分子層で修飾したSi(III)電極上での(光)電気化学的水素発生と二酸化炭素還元) 主査：客員教授 魚崎浩平
博士 (生命科学)	か い ひろ かず 甲 斐 宏 一	Study of Mechanism-Based Inhibitor for Neuraminidases (ノイラミニダーゼの作用機序に基づく特異的阻害剤に関する研究) 主査：教授 西村紳一郎
博士 (教育学)	わか はら ゆき のり 若 原 幸 範	農村の内発的発展と地域づくり主体の形成 -北海道におけるグリーン・ツーリズムの事例分析をとおして- 主査：特任教授 鈴木敏正

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (工学)	なる しま たかし 成 島 隆	その場加熱TEM観察による金属微粒子の微細構造変化に関する研究 主査：教授 米澤 徹
	と まつ まこと 戸 松 誠	防災計画への合理的な反映を目指した被害想定手法の構築と新たな防災行政組織のあり方に関する研究 主査：教授 岡田成幸
	おお た ひろし 太 田 広	英国の緑地保全及び田園地域アクセス制度に関する政策的研究 主査：教授 越澤 明
博士 (環境科学)	いな むら おまむ 稲 村 修	炭素・窒素安定同位体比を用いた淡水環境指標としてのオオクチバス <i>Micropterus salmoides</i> に関する研究 主査：教授 南川雅男
	あし かが かず のり 足 利 和 紀	Studies on effective breeding methodologies to improve the nutritive value in timothy ( <i>Phleum pratense</i> L.) (チモシー ( <i>Phleum pratense</i> L.) の栄養価改良に向けた効果的な育種方法に関する研究) 主査：教授 山田敏彦

## ■同窓会との交流

### 平成24年度北海道大学連合同窓会 評議員会・幹事会合同会議を開催

6月12日(火)、札幌市内のホテルで、北海道大学連合同窓会評議員会・幹事会合同会議を開催しました。

当日は、数士文夫連合同窓会会長(JFEホールディングス株式会社相談役)をはじめとする役員、評議員・幹事である各学部等同窓会・地区同窓会の代表、大学からは佐伯 浩総長をはじめとする役員計61名が出席しました。特に、海外から中国・台湾の代表が参加しました。

会議の前、連合同窓会に加入の申し出のあったブラジル北海道大学同窓

会、北海道大学環境科学同窓会の紹介があり、学部等同窓会19、地区同窓会28、合計47団体で構成される組織になった旨報告がありました。

今回の会議では、各学部等同窓会・地区同窓会の活動状況等について報告があり、平成23年度事業・決算報告及び平成24年度の事業計画について、審議が行われました。

なお、大学からは本学の近況について報告を行いました。

合同会議終了後に行われた懇談会では、参加者同士の意見交換が活発に行

われ、最後は全員で「都ぞ弥生」を合唱し盛況のうちに終了しました。

(総務企画部広報課)



数士会長の挨拶



合同会議の様子



本学の近況を説明する佐伯総長



全員での「都ぞ弥生」合唱

## 東京同窓会「新社会人歓迎会」

6月2日(土)、東京同窓会の「新社会人歓迎会」がホテルグランドヒル市ヶ谷(東京都新宿区)で開催されました。東京同窓会は出身学部に関係なく東京で活動する卒業生が会員となる同窓会で、毎年新たに東京に就職した卒業生を歓迎するために「新社会人歓迎会」を開催しています。今回は新社会人14名を含む約70名の参加があり、本学から三上 隆理事・副学長、藤川重雄東京オフィス所長が出席しました。

歓迎会は、石山 喬東京同窓会理事長の挨拶の後、三上理事・副学長の乾杯挨拶で始まり、新社会人紹介、出席者の氏名を使ったビンゴゲームなどが行われ、恒例の「都ぞ弥生」大合唱の後、写真撮影があり、お開きとなりました。

東京同窓会は異なる年代や異業種との人脈作りに最適であり、新社会人も

早速同窓生と名刺交換を行うなど、有意義な歓迎会となりました。

(総務企画部広報課)



挨拶する石山理事長



乾杯前の一言を述べる三上理事・副学長



新社会人の紹介



歓迎会恒例の集合写真

## 関西同窓会「北大会館祭」(9周年)

6月2日(土)、関西同窓会の「北大会館祭」(9周年)が大阪駅前第2ビルで開催されました。関西同窓会の活動拠点である北大会館は、今年で開館10年目を迎えました。今年の北大会館祭は、「母校の現状を知る(就職支援について)」をテーマとし、約60名の同窓生の参加があり、本学から小柴正則キャリアセンター長、川端和重人材育成本部上級人材スキルステーション事業統括が出席しました。

遠藤彰三関西同窓会会長の開式挨拶の後、小柴キャリアセンター長より就職支援・キャリア教育の必要性、キャ

リアセンターの活動内容などについて、川端人材育成本部上級人材スキルステーション事業統括より、人材育成本部のミッション、学士・修士・博士それぞれが社会でリーダーとして活躍できるための大学及び大学院教育改革の推進の必要性などについて説明がありました。参加者からは、キャリアセンターの活動への感謝の言葉や、自らの時代と比較しての質問など活発な意見交換が行われ、大変有意義なものとなりました。

講演会終了後に行われた記念パーティーでは、卒業年次や学部を超えて

歓談する光景が会場一杯に拡がり、最後は「都ぞ弥生」の大合唱で締めくくり、大いに交流を深めた一日となりました。

(総務企画部広報課)



講演を聴く参加者



講演する小柴キャリアセンター長



講演する川端人材育成本部上級人材スキルステーション事業統括



「都ぞ弥生」高唱の輪

## 第64回工学部同窓会総会

第64回工学部同窓会総会が、6月1日(金)、工学部B31講義室において開催されました。総会に先立ち、午後3時から、「近代の終わる時」の講演題目で、第15代総長で現在は北海道総合研究機構理事長の丹保憲仁氏(土木工学科30期)の講演がありました。引き続き、午後4時から総会が開催され、議案に基づき審議・採決されました。

総会終了後には、午後5時から工学

部リフレッシュホールにおいて懇親会が開催されました。現役の学生会員から名誉教授の先生方まで、70名を越える会員が集い、和気藹々のうち第53代応援団長の氏平増之氏(鉱山工学科43期)の音頭により、ドイツ語の「都ぞ弥生」の大合唱等も披露され盛会裡にお開きとなりました。

(工学院・工学研究院・工学部)



総会の様子



懇親会での「都ぞ弥生」大合唱

恵迪寮歌「都ぞ弥生」が誕生してから百年を迎えたことに伴い、6月9日(土)、「都ぞ弥生百年記念祭」が開催されました。本行事に加え、「都ぞ弥生」百年記念事業等について、北海道大学恵迪寮同窓会代表幹事の白浜憲一様にご寄稿いただきましたので、次に紹介します。

## 「都ぞ弥生」百年記念事業と記念祭 ～世紀を架けて 求め続ける 清き国～

明治時代の掉尾を飾る明治45(1912)年、北の大地の壮麗な自然の情景に心を奪われた横山芳介君と赤木顕次君の二人の若人が恵迪寮歌「都ぞ弥生」をこの世に生ましめました。彼らの瑞々しい感性と清らかな野心は、今もなお人々の心を掴んで離しません。「都ぞ弥生」は、喜びで心が高なる時、悲しみで心が震える時、苦しみで心が押しつぶされそうな時、過ぎ去りし恵迪寮生活を懐かしみ、明日に向けて仲間と肩組み奏でる心の歌であります。しかも、この寮歌は全北大生の愛唱歌であり、式典歌・応援歌であり、全国各地の多くの人々によって親しみ歌われ続けています。

恵迪寮同窓会は、二世紀目を迎える「都ぞ弥生」が北大の更なる発展に寄与するものと確信し、歌詞に込められた自然の芸術を讃え、燃えたぎる貴とき野心を受け継ぎ、永遠に歌い継がれんことを願い、現恵迪寮及び北海道大学と連携し、「都ぞ弥生」百年を祝うとともに、この歌の原点を知り、百年にわたり歌い継がれている根源を検証し、北海道大学と恵迪寮のFrontier spiritとBe gentleman with lofty ambitionの今日的意義を北海道のみならず、日本全土、全世界に向かって発信する記念事業と記念祭を展開することにしました。

### 1. 5つの百年記念事業の展開

恵迪寮同窓会は3年前から「都ぞ弥生」誕生百年を記念して5つの事業を企画し、その実行のため協賛金募集などの活動を展開して参りました。「都ぞ弥生」が歌えない学生の急増への懸念から、平成23・24年度入学新入生5,206名に、恵迪寮同窓会OB合唱隊吹込みによる「都ぞ弥生」CDを配布、また、歌詞に登場するサクラ、ニレ、カツラの木を北海道開拓の村「寮舎」前庭、中庭に記念植樹、更に記念祭参加者配布用に「都ぞ弥生」百年記念誌を発行しました。

5月20日(日)～6月20(水)、北大総合博物館で開催した百年記念展示は、「都ぞ弥生」に関する数多くの資料を展示し、オープニングとクロージングセミナーも開催し、来場者は延べ約3,000名になりました。

残された最大の事業は、ドキュメンタリードラマ「清き国ぞとあこがれぬ」の制作です。来春の北海道内TV放映とDVD完成を目指し撮影が始まりました。このドラマが、21世紀における北海道大学の4つの理念の実現と、札幌農学校寄宿舎以来の自治の伝統と歴史を誇りとし、全国で唯一現在も毎年1曲の寮歌を作り続ける恵迪寮の発展の一助となることを期待しています。

### 2. 百年記念祭、延べ1,000名の参加で大成功!

恵迪寮歌「都ぞ弥生」百年記念祭が6月9日(土)、初夏の爽やかな気候の中、北大クラーク会館講堂、中央ローン、京王プラザホテル札幌で開かれ、延べ1,000名の参加者が名寮歌の百歳を祝いました。

クラーク会館講堂の記念式典で横山 清恵迪寮同窓会長は、「北大の貴重な宝である『都ぞ弥生』をこれからも歌い継いでいこう」と力強く式辞を述べ、また、百年記念委員会名誉会長の佐伯 浩総長は「北大も国際化して留学生が各国から沢山来ているが、北大の日本人学生達には海外に出て、いろいろな国の人達と交流して欲しい、北大はそのための仕掛けを作っている」、また「多くの同窓生が北大に集う企画としてホームカミングデーを10月6日に開催する」と挨拶、続いて齋藤和雄北海道大学連合同窓会副会長から「近年、世界はグローバリゼーションの中で社会情勢、経済情勢は不安定で人権問題を含め、極めて混沌とした時代を迎えており、百年にも亘り続けてきた揺るぎ無い恵迪精神、このような精神が今求められているといっても過言ではない」と祝辞を述べられました。外遊中のノーベル賞受賞者である鈴木 章名誉教授からも「北大という共同体の中で私の研究は支えられてきた」と述べられたビデオメッセージが披露されました。

続いての記念コンサートは、ベルリンからお招きしたヴァイオリニスト植村理葉さんとピアニスト一宮明代さんによる、「クロイツェル」(ベートーヴェン)、「ツゴイネルワイゼン」(サラサーテ)が演奏され会場を厳粛なムードに包み、また、この日のために植村さんが作曲した「都ぞ弥生幻想曲」が披露されると満員の館内は拍手喝采の渦に巻き込まれました。

恵迪寮出身の新進作家 佐川光晴君(47歳)は記念講演で、恵迪寮執行委員長当時の学寮の自治の根幹を成す自主入寮選考権についての大学との交渉を振り返りつつ、自治の伝統を守ることの重要性を強調、また、学寮の「教育施設」としての機能を具体例をあげて熱弁を振るい、大きな拍手が沸きました。

会場を中央ローンに移しての「都ぞ弥生」大合唱は約600名の参加があり、マスコミ各社の取材を受ける中で大盛況でした。「都ぞ弥生」のインターナショナル化を企図する新しい試みとして、同窓会の有志や留学生によるドイツ語・中国語・韓国語・スワヒリ語・英語で「都ぞ弥生」を歌い上げ、参加者の関心を集め、当日のNHK夕方ニュースでの放映や翌日の新聞各社朝刊で取り上げられました。

記念祭の締め括りは京王プラザホテル札幌での大寮歌祭です。海外（パリ、オスロ）をはじめ南の沖縄など全国各地から350名を超える仲間では会場は熱気にあふれ、足の踏み場もないほどでした。来賓に続き最高齢の穴戸昌夫さん（96歳）や、作詞者である横山芳介君の子女が紹介された後、何十年ぶりの再会を喜ぶ光景があちこちで見られる中、入寮年次や学部別、友情参加の小樽商大OB、現寮生らが次々に登壇し約30曲の寮歌を高唱しました。思い思いのスタイルで高歌放吟しステージは最高潮に達しました。「都ぞ弥生」の1番から5番まで歌った後、足下が危なっかしい「ストームの歌」と続き、締めの「別離の歌」で大団円となりました。

正午過ぎの記念式典から、歌いまくり、語り続けて約9時間。参加者全員、世代を超えて集い合える不朽の寮歌「都ぞ弥生」に感謝しつつ会場を後にしました。

### 3. これからの百年に歌い継がれる「都ぞ弥生」

横山芳介君が1番に「人の世の 清き国ぞとあこがれぬ」と起句し、5番で「貴き野心の訓え培い 栄え行く 我等が寮を誇らずや」と渾身の一行を結句とした1912年から一世紀。私たちは何を経験し、21世紀を生き抜く世代に何を託すのか。

先ず、彼は人・モノ・金で動く世の中において、憧れの北斗には人の世があると見極め、2番から5番で北の大地の秋冬春夏と自然が織り成す芸術と畏敬を余すところ無く歌い上げました。正しく自然と調和する中でこそ人間らしく生きられるのだと。この百年の科学と人間の前進と後退を真摯に受け止め、深い教訓と戒めとし、次の百年の明るく希望に満ちた人の世の清き国の創造に生かさなければならぬ。

次に、貴き野心の訓え（Be gentleman with lofty ambition）を培うことを人生の不易流行の通として生きよということ。時代は流れ移ろうものであるが、私達にはその流行を取り込みながら、その底流にある「不易」を見失わず、誠実にその通を究め続けることが求められます。

さらに、集団共同生活のなかでの青春の交歓は、瑞々しい知性と感性を醸成するとともに、人の世の絆＝縁＝利他 の大切さを身体に刻み込みます。人間教育の場としての学生寮を絶やしてはなりません。

「都ぞ弥生」誕生百年の節目の年に、この3つのメッセージを北の大地と日本の未来の進むべき道標として再認識できることの歓喜は海よりも広く山よりも高い。百年歌い継がれてきた私達の「都ぞ弥生」は、未だ色褪せることなく、北斗の光として燦然と輝き、時空を超えて益々冴えわたっているのです。



記念式典の様子



鈴木先生からのビデオメッセージ



記念コンサートの様子



中央ローンでの「都ぞ弥生」大合唱



大寮歌祭の様子

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成24年 6月6日）

- 議案・平成24年度老朽化防止対策経費事業について  
・国立大学法人北海道大学役員の給与の臨時特例に関する規程の制定について
- 協議事項・教育関係共同利用拠点の認定申請について  
・全学運用教員の措置について  
・平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について  
・平成24年度に実施する法科大学院認証評価の自己評価書について  
・平成25年度概算要求事項について  
・平成23年度決算について
- 報告事項・平成23年度老朽化防止対策経費事業決算について  
・平成24年度今夏の節電対策について  
・キャンパス・クリーン・デーの実施結果について  
・平成23年度職員定期健康診断受診率について  
・平成25年度特別経費文部科学省事前説明の状況について  
・平成24年度総長室事業推進経費について  
・平成23年度中期目標達成強化経費決算について  
・平成23年度総長室等事業推進経費決算について  
・平成23年度病院収支の概要について
- 

### 経営協議会（平成24年 6月12日）

- 議題・総長選考会議委員の選出について  
・平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について  
・平成25年度概算要求事項について  
・平成23年度決算について
- 報告事項・役員及び職員の給与について  
・「北大フロンティア基金」の寄附受入状況等について  
・産学連携本部の活動状況等について
- 

### 教育研究評議会（平成24年 6月13日）

- 議題・教育関係共同利用拠点の認定申請について  
・平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について  
・平成24年度に実施する法科大学院認証評価の自己評価書について  
・平成25年度概算要求事項について  
・教員の懲戒について
- 報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2012の開催について  
・ヘルシンキオフィスの開所式等について  
・平成23年度北海道大学外国人留学生後援会の決算について  
・未登録の国際規制物資について
- 

### 役員会（平成24年 6月13日）

- 議案・教育関係共同利用拠点の認定申請について  
・グローバル人材育成推進事業の申請について  
・平成25年度概算要求提出について
- 報告事項・文部科学省平成24年度地域イノベーション戦略支援プログラムの採択について  
・北の森林プロジェクト推進計画について  
・大学の世界展開力強化事業への申請構想について
- 

### 役員会（平成24年 6月25日）

- 議案・平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について  
・平成24年度に実施する法科大学院認証評価の自己評価書について  
・平成23年度決算について  
・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）への応募について  
・平成24年度中期目標達成強化経費第二次決定事業について
- 報告事項・平成24年度研究支援体制整備事業費補助金（URA）の交付内定について  
・夏季操業調整契約（自家発電対応型）について  
・安全衛生本部の体制強化について  
・平成24年度総長室事業推進経費第二次決定事業について  
・役職員の報酬・給与等の水準の公表について  
・平成23年度内部監査報告について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。



## ■ 学内規程

---

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター規程の一部を改正する規程

(平成24年6月11日海大達第84号)

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション共同利用規程

(平成24年6月11日海大達第85号)

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション共同利用協議会規程

(平成24年6月11日海大達第86号)

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用規程

(平成24年6月11日海大達第87号)

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用協議会規程

(平成24年6月11日海大達第88号)

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター宿泊施設利用規程の一部を改正する規程

(平成24年6月11日海大達第89号)

本学北方生物圏フィールド科学センターに置かれている施設のうち、森林圏ステーションの各研究林、水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所について、本学の教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができることを明確にすること並びに当該施設の共同利用及び共同利用協議会に関する事項を定めることに伴い、所要の改正及び定めを行ったものです。

---

### 北海道大学総合博物館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成24年7月1日海大達第90号)

総合博物館運営委員会の構成員について、専任の講師を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学環境健康科学研究教育センター規程の一部を改正する規程

(平成24年7月1日海大達第91号)

本年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学教育研究組織の長の選考及び任期に関する規程が改正され、学内共同教育研究施設等の長の要件が定められたこと、並びに副センター長及び兼務教員の要件を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学役員の給与の臨時特例に関する規程

(平成24年7月1日海大達第92号)

東日本大震災の復興への対応に伴う運営費交付金減額の動向を踏まえ、本学が公的な財源により運営されていることを考慮し、役員の給与の臨時特例として本給月額等を減額支給することについて、所要の定めを行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成24年7月1日海大達第93号)

本年7月1日付けで、創成研究機構に、本学のナノテクノロジー分野における各研究領域の連携を支援するとともに、他の研究機関等との連携を推進し、並びにナノテクノロジー関連の研究設備の管理及び利用支援を行うため、ナノテクノロジー連携研究推進室を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成24年7月1日海大達第94号)

創成研究機構共用機器管理センターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成24年7月1日海大達第95号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

## 表敬訪問

### 海外

月 日	来 訪 者	来 訪 目 的
24.6.1	タマサート大学（タイ）Taweeep Chaisomphob 副学長	両大学の今後の交流に関する懇談
24.6.8	合肥工業大学（中国）Xu Congwei 学長	両大学の今後の交流の可能性に関する懇談
24.6.11	東京大学総長室顧問 Stefan Noreén 氏	本学の教育・研究の国際化に関する懇談
24.6.13	在札幌オーストラリア領事館 Christopher Wood 領事	領事離任挨拶
24.6.18	在日フランス大使館 Bertrand Fort 文化参事官	本学とフランスの大学との協定や留学等に関する懇談
24.6.26	駐日ケニア共和国大使館 Benson H.O. Ogutu 特命全権大使	両国の交流に関する懇談



タマサート大学 Taweeep Chaisomphob 副学長（左端）



合肥工業大学 Xu Congwei 学長（中央）



東京大学総長室顧問 Stefan Noreén 氏（右から2人目）



在札幌オーストラリア領事館 Christopher Wood 領事  
（右から2人目）



在日フランス大使館 Bertrand Fort 文化参事官  
（右から2人目）



駐日ケニア共和国大使館 Benson H.O. Ogutu  
特命全権大使（中央右）

（国際本部国際連携課）

# ■人事

平成24年6月8日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 北海道大学病院薬剤部薬剤師	難 波 正 志	北海道大学病院薬剤部薬剤助手

平成24年6月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	林 成 蔚	採用

平成24年6月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院先端生命科学研究院教授	姚 関	大学院先端生命科学研究院准教授
【助教】 北方生物圏フィールド科学センター助教	谷 亀 高 広	採用

平成24年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	杉 浦 千 尋 大 平 洋	大学院歯学研究科助教 北海道大学病院助教
【技術職員】 (辞職)	岡 崎 さや香	北海道大学病院看護部看護師

平成24年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院理学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院農学研究院教授	増 田 隆 一 岩 井 一 彦 高 橋 昌 志	大学院理学研究院准教授 名古屋大学大学院工学研究科准教授 採用
【准教授】 大学院農学研究院准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授	若 松 純 一 内 海 俊 介	大学院農学研究院助教 採用
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院薬学研究院助教 北海道大学病院助教 電子科学研究所助教 (出向) J A 北海道厚生連帯広厚生病院 社会福祉法人函館厚生院函館中央病院	中 村 透 浅 香 卓 哉 松 岡 真 琴 出 山 諭 司 渡 部 拓 秋 山 正 和  小 谷 俊 雄 高 橋 紀久子	採用 採用 採用 採用 採用 採用  北海道大学病院助教 北海道大学病院助教

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【係長】</b> 財務部経理課係長 財務部調達課係長 施設部施設企画課係長 工学系事務部経理課係長 北海道大学病院経営企画課係長 (転入) 函館キャンパス事務部係長 (出向) 北見工業大学総務課係長	對 馬 秀 俊 羽 澤 明 文 長 南 敏 幸 後 藤 普 佐 藤 規 久  吉 田 陽 太  福 井 将 人	北海道大学病院経営企画課係長 工学系事務部経理課係長 函館キャンパス事務部係長 財務部経理課係長 財務部調達課係長  帯広畜産大学経営企画支援部財務課専門職員  農学事務部主任
<b>【主任】</b> 財務部調達課主任 農学事務部主任 農学事務部主任 北海道大学病院総務課主任	渡 邊 博 北 野 修 司 鈴 木 孝 幸 中 村 澄 人	情報環境推進本部情報推進課主任 総務企画部人事課付主任 工学系事務部総務課主任 北海道大学病院管理課主任
<b>【係員】</b> 研究推進部産学連携課 法学研究科・法学部 理学・生命科学事務部事務課 工学系事務部総務課 農学事務部 北海道大学病院管理課 (転入) 財務部調達課	吉 本 幸 矩 對 木 文 宏 窪 田 陽 菜 笹 本 和 矢 川 本 学 高 梨 信 人  大 内 俊 輔	北海道大学病院総務課 総務企画部人事課 施設部環境配慮促進課 法学研究科・法学部 理学・生命科学事務部事務課 財務部調達課  北見工業大学財務課
<b>【嘱託職員】</b> 施設部施設整備課 北海道大学病院総務課 北海道大学病院管理課 北海道大学病院医事課医療支援室	丸 山 浩 三 松 本 順 子 今 田 純 一 阿 部 公 子	施設部環境配慮促進課 財務部調達課 施設部施設企画課 北海道大学病院総務課

新任教授紹介

平成24年6月15日付



公共政策学連携研究部附属  
公共政策学研究センター教授に

リン チェンウエイ  
**林 成蔚 氏**

公共政策研究部門

生年月日

昭和41年10月4日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了(平成15年2月)  
博士(学術)(東京大学)

専門分野

東アジア研究, 国際政治, 比較政治, 福祉国家論

平成24年6月16日付



先端生命科学研究院  
教授に

ヤオ ヨウ  
**姚 閔 氏**

先端融合科学部門X線構造生物学

最終学歴

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了(平成7年3月)  
博士(理学)(北海道大学)

専門分野

構造生物学

平成24年7月1日付



理学研究院教授に

ますだ りゅういち  
**増田 隆一 氏**

自然史科学部門多様性生物学  
分野

生年月日

昭和35年4月7日

最終学歴

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了(平成元年9月)  
理学博士(北海道大学)

専門分野

分子系統進化学, 集団遺伝学



工学研究院教授に

いわい かずひこ  
**岩井 一彦 氏**

材料科学部門エコマテリアル  
分野

最終学歴

名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程修了(平成5年3月)  
博士(工学)(名古屋大学)

専門分野

電磁場を使ったものづくり



農学研究院教授に

たかはし まさし  
**高橋 昌志 氏**

生物資源生産学部門家畜生産  
学分野

生年月日

昭和38年4月11日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科修士課程修了(昭和63年3月)  
博士(農学)(北海道大学)

専門分野

家畜繁殖学

## 訃報

名誉教授 <sup>たなか えいじ</sup> 田中英二氏  
(享年79歳)



名誉教授 田中英二先生は平成24年1月17日に御逝去されました。ここに生前の功績を偲んで哀悼の意を表します。

田中先生は、昭和33年北海道大学医学部医学科を卒業後、内科学第三講座(高杉年雄教授)に入局、同37年同講座助手、同43年同講師、同51年同助教授に就任されました。昭和58年からは北海道大学医療技術短期大学部衛生技術学科教授となり北大病院で診療を続けながら、平成8年の退官までおよそ45年間北海道大学に在籍し、内科学、臨床検査医学を中心に、医師・メディカルスタッフの育成に尽力されました。

田中先生は内科学の中でも血液学を

専門とし、白血病の診断と治療を中心とした臨床血液学の分野で優れた業績を残され、日本内科学会(認定医)、日本血液学会(認定医・指導医・評議員)、日本臨床血液学会(評議員・幹事)等において活発な研究活動を続けられ、日本血液学会、臨床免疫学会などではシンポジストとして活躍されました。

先生の研究テーマの中では特に「リンパ増殖性疾患におけるリンパ球の細胞表面マーカーについての研究」において、独自の抗体を作成してT細胞とB細胞を分離・解析することに成功し、当時北大第3内科が国内で最先端と評されていました。田中先生の研究における基本的姿勢は人まねではない独創性の高い研究を遂行することであり、若手研究者には自らの失敗談を積極的に伝え、「失敗したときこそチャンスである」が口癖で、オリジナリティの高い研究の重要性を教授し続けました。

教育では内科学、臨床講義、臨床血液学、臨床病態学等を担当し、豊富な臨床経験に加えて講義の準備には多大

な時間をかけて常に最新の医学知識を教授することをモットーとされていました。また講義の中で提示される美しい血液細胞の写真に多くの学生が感銘を受けていました。診療では北大病院医師として200名を超える白血病患者さんに最新の診療を行う一方、多くの患者さんに笑顔でユーモアあふれる診療で大変人気の高い先生でした。MRIがわからないお年寄りに「エム・アール・アイ」は難しいから「イモライ」に行きなさい、などとよく言っておられました。

また先生は写真を趣味として北大病院写真友の会に所属し、北大病院の展覧会に毎年出品して患者さんの憩いの場の環境作りにも積極的に貢献されていました。先生の目指した医学研究・医療への志は現在先生の教え子が北大医学部はもとより全道、全国各地で活躍することで生かされています。

先生の長年のご功績に敬意を表するとともに、ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(保健科学院・保健科学研究所・医学部保健学科)

名誉教授 <sup>たかはし かおり</sup> 高橋香織氏  
(享年88歳)



名誉教授 高橋香織氏は、平成24年6月19日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、大正13年3月31日札幌市に生まれ、昭和21年9月北海道帝国大学医学部医学科を卒業後、北海道大学大学院特別研究生となり、同26年10月悪性腫瘍の臓器特異性に関する研究で医学博士の学位を授与されました。昭和27年1月から同39年8月まで美幌町立

国民健康保険病院長として勤務し、北海道の地域医療に多大な貢献をされています。昭和39年8月北海道大学医学部助教授に任ぜられ、同47年7月からは北海道大学保健管理センター初代所長(昭和48年2月より医学部教授併任)に任命され、同61年3月の退職まで22年余の長期にわたって勤められました。殊に、保健管理センターの創設期にセンターの整備充実に尽力され、本学の学生、教職員の健康管理に貢献されたことは高い評価を受けています。退官後は、昭和61年4月から平成5年3月までNTT札幌病院長に就任し、市民の健康を守るため大きな努力を払われました。

同氏の研究活動は多岐にわたっていますが、特記すべきものは北海道大学における学生・教職員の保健管理を通じ、臨床保健学ともいべき分野を創設されたことにあります。同氏は北海

道大学学生・教職員のための体系的な健康管理体制を確立し、国立大学の保健管理センターの模範となる体系を完成させました。

学外においては、全国大学保健管理協会「大学生の健康白書」の編集委員として活躍し、協会の運営・振興に貢献すると共に、全国大学の保健管理業務の運営にも寄与されました。

以上のように同氏は本学における保健管理業務並びに学生・教職員の健康の向上に努め、これらを通じて本学並びに医学の発展に寄与した功績は誠に顕著であります。これらの功績により、平成14年5月、勲三等瑞宝章を授与されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(医学研究科・医学部)

## 編集メモ

---

●今号の表紙は、1955（昭和30）年5月当時のメインストリートです。前号に引き続き、本学卒業生である上田茂穂様が在学中に撮影された写真です。右側の建物は、当時の低温科学研究所で、1941年10月31日に新築されました。その後、低温科学研究所は1968年に現在の北エリアに移転し、その跡地には文学部・教育学部の管理棟・教室研究室棟が建てられました。現在では、本学の広大なキャンパスの

象徴となっているメインストリートですが、当時を知る読者の皆様にとっても、思い出深い風景ではないでしょうか。

●「北大時報」が700号を迎えました！1934（昭和9）年1月の第1号発行から70年以上にわたり、積み重ねてきた北大の歴史が記録されています。本学ホームページでは、平成8年のバックナンバーからご覧いただけます。



2011. 7. 1 北見市ワッカ原生花園

## 北の息吹 63 エゾスカシユリ (*Lilium pensylvanicum*)

北海道からシベリアまで広く分布する大型の百合で、北海道の原生花園を代表する花であることや、名前が花の基部にある隙間に由来するのはよく知られている。本州に分布するスカシユリよりは大型で、よりあでやかな花をつけ、蕾に白色の毛が多いのも特徴である。北米には山岳地帯を含め *Lilium philadelphicum* と呼ばれるよく似た種が分布しているが、花弁が尖っ

ているなどの点で見分けは容易である。この北米種の種名がフィラデルフィアというのは理解できるが、北米にはない本種の種名がそれを州都とするペンシルバニア州由来というのは合点が行かない。どうやら、記載した研究者の勘違いらしい。

前理事・副学長 岡田 尚武

北大時報 ⑦ No.700 平成24年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp  
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/>